

## 授 業 概 要

科目名	<b>心理学</b>	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠	
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
「こころ」の基本的な仕組みについて理解し、人の心理面をさまざまな視点から考えることが出来るようになる。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。教育関係の仕事も同時に取り組んでおり、今年で10年目となる。現在は障害者の就労支援を行う事業所も経営している。本科目では、私たち(対人援助職)が知っておくべき心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
心理学【カレッジ版】 医学書院 著者代表山村豊 2017年 第1版				授業内容の復習。 ・誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。 ・教科書を(参考書的に)読み直してみましょう。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション  【到達目標】 この科目の進め方や、心理学の全体像をつかむ。 (これから始まる授業の内容をスムーズに理解するための日)			9	【授業単元】 定期テストの概要 & 動物心理学  【到達目標】 定期テストの概要について理解する。新たな知識の発見。 動物の心理について、いくつか説明できる。キーワード: 定期テスト、動物 など			
2	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(前編)  【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 科学、無意識 など			10	【授業単元】 人の学びとやる気について ~学習~  【到達目標】 新たな知識の発見。「学習」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 学習、動機づけ など			
3	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(後編)  【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性心理学 など			11	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ~性格(前編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 類型論、特性論 など			
4	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ~感覚(前編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 感覚、五感 など			12	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ~性格(後編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 生得説、経験説 など			
5	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ~感覚(後編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 錯覚、感情 など			13	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ~発達(前編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 発達のとらえ方、赤ちゃん、他人の気持ち など			
6	【授業単元】 人って世界をどうとらえているの? ~知覚~  【到達目標】 新たな知識の発見。「知覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 知覚、アフオーダンス など			14	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ~発達(後編)~  【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 友達づきあい、アイデンティティ、中年期・老年期 など			
7	【授業単元】 情報の倉庫たち ~記憶~  【到達目標】 新たな知識の発見。「記憶」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 長期記憶、短期記憶 など			15	【授業単元】 定期テスト  【到達目標】 計15回の総合計得点: 60点以上			
8	【授業単元】 考えるってどういうこと? ~思考、知能~  【到達目標】 新たな知識の発見。「思考」や「知能」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 問題解決、推理、知能 など			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A~Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2~14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
本科目は「ひと」を理解するためにあります。ただし、この科目を受ければ分かる、というよりも、実際にあなたが誰かと関わった際、その誰かを理解するための「ヒント集」というイメージです。ぜひ多くのヒントを手に入れて下さい。					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。			

## 授 業 概 要

科目名	基礎学習法A	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
自ら課題を見つけ、考え、相手に伝えることができる。 計画的に続けられる勉強方法を確立する。 主に文章読解、文章表現について学び、実践に活かすことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。計画的に続けられる勉強方法を確立するために、読む・書く・知る・考えることの面白さを伝えながら授業を進めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜授業内で紹介します。					授業で学んだ学習方法を他の科目で応用してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション	この科目で何を学ぶのかを理解できる 知ろうとすることの面白さを理解できる			9	【授業単元】 中テストを終えての分析と学習計画の立案	自身の得意・苦手分野を分析することができる 自分に合った学習計画を立案することができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】 教科書の使い方 効率的な勉強方法	教科書の使い方を理解できる 勉強法について学び、自分に合う方法を考えることができる			10	【授業単元】 学校生活での課題を見つける	学校生活においてあるとよいものを見つけ、プレゼンすることができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 前期の学習計画立案 勉強法の共有	学習計画を立案することができる 他の学生の意見を取り入れることができる			11	【授業単元】 抄録を読む	批判的な吟味について理解できる 吟味しながら読むことができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 認知的不協和 態度について	勉強に臨む姿勢について理解できる			12	【授業単元】 論文抄読	論文を批判的に吟味し、自分の意見を示すことができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 動画を見て自分の考えを示す	何を伝えたいのかを動画から読み取ることができる 自分の考えを文章で表現できる			13	【授業単元】 論文抄読	論文を批判的に吟味し、自分の意見を示すことができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 文章から想像する	文章を読み取ることができる			14	【授業単元】 夏休みの学習計画立案	夏休みの過ごし方について計画を立てることができる		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 文章を見て自分の考えを示す	文章を見て、その人の気持ちを読み取ることができる 自分の考えを文章で表現できる			15	【授業単元】 復習 定期テスト	総復習と試験にて学習の理解度を確認できる		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 文章の要約 中テスト	文章を要約することができる 中テストで自身の学習の深度を理解できる			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験および発表、レポートにて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加する									

## 授 業 概 要

科目名	基礎学習法B	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
自ら課題を見つけ、考え、相手に伝えることができる。 計画的に続けられる勉強方法を確立する。 主に理系的な思考について学び、実践に活かすことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害者領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。計画的に続けられる勉強方法を確立するために、読む・書く・知る・考えることの面白さを伝えながら授業を進めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜授業内で紹介します。					授業で学んだ学習方法を他の科目で応用してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 夏休みにしたこと発表				9	【授業単元】 中間発表			
	【到達目標】 日々の生活が学びとなることを理解できる 自分の生活を振り返り、今後活かすことができる					【到達目標】 中間発表を通して、実験の課題を見つけ、修正できる			
2	【授業単元】 基礎医学に必要な数学 統計学の基礎				10	【授業単元】 実験			
	【到達目標】 単位の変換について理解できる 統計学の基礎について理解できる					【到達目標】 実際に検証することの大切さを理解できる			
3	【授業単元】 基礎医学に必要な化学 筋の覚え方				11	【授業単元】 実験			
	【到達目標】 酸塩基平衡、栄養学などの基礎知識を理解できる 筋を効率的かつ効果的に覚えることができる					【到達目標】 実際に検証することの大切さを理解できる			
4	【授業単元】 基礎医学に必要な物理学				12	【授業単元】 発表準備			
	【到達目標】 バイオメカニクスについて理解できる					【到達目標】 発表に向けて、データのまとめができる わかりやすい発表を検討できる			
5	【授業単元】 レポートの書き方 実験のオリエンテーション				13	【授業単元】 発表準備			
	【到達目標】 レポートの書き方が理解できる 自分で検証することの大切さを理解できる					【到達目標】 発表に向けて、データのまとめができる わかりやすい発表を検討できる			
6	【授業単元】 実験計画立案				14	【授業単元】 発表			
	【到達目標】 課題を見つけ、取り組むことができる					【到達目標】 発表を通して、自身の考えを他者に伝えることができる			
7	【授業単元】 実験				15	【授業単元】 1年次の総括と2年次の計画 定期テスト			
	【到達目標】 実際に検証することの大切さを理解できる					【到達目標】 試験にて学習の理解度を確認できる 1年次の振り返りを行い、2年次の計画を明確にすることができる			
8	【授業単元】 実験				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験および発表、レポートにて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(9回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 実際に検証することの大切さを理解できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加すること									

## 授 業 概 要

科目名	情報処理入門	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる</li> <li>・Excelを利用し表計算やグラフ作成を行える ・Wordを利用し、複合文書を作成できる</li> <li>・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 OCT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法			9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト				
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる				【到達目標】 スライド作成の基本的な操作ができる				
2	【授業単元】 OCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト			10	【授業単元】 プレゼン基礎1 発表シナリオ作成				
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる				【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる 発表用のシナリオを作成できる				
3	【授業単元】 Excel基礎1 Excelの基本操作			11	【授業単元】 プレゼン基礎2 発表スライド作成				
	【到達目標】 Excelの基本的な操作(表作成・計算・グラフ作成)ができる				【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				
4	【授業単元】 Word基礎1 基本操作			12	【授業単元】 プレゼン基礎3 発表スライド作成				
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる				【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる				
5	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形			13	【授業単元】 PowerPoint4 発表				
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 作成したプレゼン資料を発表できる				
6	【授業単元】 Word基礎3 表の作成			14	【授業単元】 PowerPoint試験対策				
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				
7	【授業単元】 Word試験対策			15	【授業単元】 PowerPoint定期試験、振り返り				
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる				
8	【授業単元】 Word中テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

## 授 業 概 要

科目名	人間関係論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
相手の心理・社会的背景を踏まえながら、相手との良好な関係を築く方法を学ぶことができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、相手との良好な関係を築く方法を学べるようにしていきます。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
授業で適宜紹介いたします。					積極的に他者とのコミュニケーションを図ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション① 自己理解  <b>【到達目標】</b> 今後の進め方と、自己について理解することができる。				9	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑨ コミュニケーションとチームビルディング  <b>【到達目標】</b> コミュニケーションの方法とチーム力を高めることができる。			
2	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション② コミュニケーション  <b>【到達目標】</b> グループで学校周辺の探索をしながら、相手とのコミュニケーションをとり、必要なスキルを身に付けることができる。				10	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑩ 心構え  <b>【到達目標】</b> 医療職に求められる心構えを作ることができる。			
3	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション③ コミュニケーション  <b>【到達目標】</b> コミュニケーションを取りながら作業を行い、コミュニケーションに必要なスキルを身に付けることができる。				11	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑪ 学科交流会準備  <b>【到達目標】</b> 学科交流会に向けて必要な準備を行うことができる。			
4	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション④ 他者理解・他者受容  <b>【到達目標】</b> すごろくトーキングを通して、様々な価値観を知ることができる。				12	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑫ 言葉の花束  <b>【到達目標】</b> 他者への感謝を伝えることができる。			
5	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑤ 職業理解  <b>【到達目標】</b> グループワークを通じて職業に求められるスキルを理解することができる。				13	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑬ 学力テスト  <b>【到達目標】</b> 医療職に求められる基本的な学力における現状を確認することができる。			
6	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑥ 集団について  <b>【到達目標】</b> グループワークを通じてクラスや集団について理解することができる。				14	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑭ 学科交流会  <b>【到達目標】</b> 年代を超えた人とのコミュニケーションを適切に取ることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑦ 習慣・目標  <b>【到達目標】</b> 今後医療職に求められるマインドやスキルの理解と、今後に向けての目標を立てることができる。				15	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑮ 学科交流会  <b>【到達目標】</b> 年代を超えた人とのコミュニケーションを適切に取ることができる。			
8	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション⑧ 学習方法  <b>【到達目標】</b> 今後に必要な学習方法について理解することができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
					科目の評価は、各回のレポートと全体を通じたレポートを提出したことで記点する。記点の詳細は下記に記載する。				
					第1～2回 10点分 第3～4回 10点分 第5～6回 10点分 第7～8回 10点分 第9～10回 10点分 第11～12回 10点分 第13回～15回 10点分 全体を通してのレポート提出 30点分 計100点				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
この授業では、臨床に出てから重要になるコミュニケーションなどについて学んでいきます。主体的な態度で臨むようにしましょう！									

## 授 業 概 要

科目名	人の生活と作業	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
自分自身の生活がどのように成り立っているかを調べ、作業という概念をしっかりと理解する。 人の生活を構成する要素について概観し、ICF(国際生活機能分類)が提示している内容を、実際の生活レベルで理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は身体障害領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表をしている。人が行っている作業について、自分自身の振り返りをもとに、作業の考え方の幅を広げていくように講義やディスカッションを行っていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「作業」って何だろうー作業科学入門第2版					自身の生活の中で振り返りを行うこと				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション、自己開示(紹介)			9	【授業単元】 国際生活機能分類(ICF)について				
	【到達目標】 コミュニケーションをとるうえで大切な考え方を理解できる。				【到達目標】 WHO(世界保健機関)が定めた国際生活機能分類について理解できる。				
2	【授業単元】 コミュニケーション演習			10	【授業単元】 ディベート②				
	【到達目標】 コミュニケーションの手段について理解できる。				【到達目標】 グループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を習得できる。				
3	【授業単元】 自分の生活を振り返る:生活時間構造			11	【授業単元】 作業科学について③				
	【到達目標】 普通の生活とは何か考えることができる。 自分の生活を振り返り、人が日々どのように生活しているかを考察できる。				【到達目標】 作業科学の諸概念について理解できる。				
4	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える①			12	【授業単元】 作業科学について④				
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えることができる。				【到達目標】 作業科学と作業療法について理解できる。				
5	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える②			13	【授業単元】 ディベート③				
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えることができる。 それを改善するために行われている実践例を考察できる。				【到達目標】 意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を習得できる。				
6	【授業単元】 ディベート①			14	【授業単元】 インテーク演習				
	【到達目標】 意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を習得できる。				【到達目標】 自分がインテークを行う場合の方法について、項目を整理できる。 実際に1対1でインテークができる。				
7	【授業単元】 作業科学について①			15	【授業単元】 まとめ、試験				
	【到達目標】 作業の意味について理解できる。				【到達目標】 科目全体を振り返り、終了後試験を行う。				
8	【授業単元】 作業科学について② 中テスト			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び確認テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。					
	【到達目標】 作業の意味について理解できる。 中テストで学習の習得度を理解できる。			・試験は発表または口頭試問または筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習が多いので、積極的に参加すること。									

## 授 業 概 要

科目名	国際教育学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・世界で行われている作業療法実践の理解を深めることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、世界で行われている作業療法実践の理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業で適宜紹介いたします。					海外で行われている作業療法について、自己学習を進め理解を深めてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 国際的な視点をもつ意義  【到達目標】 科目の位置づけとその意義を理解することができる。				9	【授業単元】 調べ学習  【到達目標】 先進国の作業療法の講義に向けて、先進国で行われている作業療法を理解することができる。			
2	【授業単元】 調べ学習 特別支援学校  【到達目標】 海外での特別支援学校の講義に向けて、事前に特別支援学校についての理解をすることができる。				10	【授業単元】 先進国の作業療法  【到達目標】 先進国で行われている作業療法について理解することができる。			
3	【授業単元】 海外の特別支援学校  【到達目標】 海外の特別支援学校について理解することができる。				11	【授業単元】 先進国の作業療法  【到達目標】 先進国で行われている作業療法について理解することができる。			
4	【授業単元】 調べ学習 JICA  【到達目標】 JICAに関する講義に向けて、JICAについて理解することができる。				12	【授業単元】 発表準備①  【到達目標】 講義で学んだことについて、まとめて発表するための資料を作成することができる。			
5	【授業単元】 調べ学習 JICA  【到達目標】 JICAに関する講義に向けて、JICAについて理解することができる。				13	【授業単元】 発表準備②  【到達目標】 講義で学んだことについて、まとめて発表するための資料を作成することができる。			
6	【授業単元】 海外での作業療法  【到達目標】 発展途上国の作業療法について理解することができる。				14	【授業単元】 発表準備③  【到達目標】 講義で学んだことについて、まとめて発表するための資料を作成することができる。			
7	【授業単元】 JICAについて  【到達目標】 JICAで実際に行われている作業療法に理解することができる。				15	【授業単元】 発表  【到達目標】 この科目を通して学んだことについて、自身の考えをまとめて発表することができる。			
8	【授業単元】 JICAについて  【到達目標】 JICAで実際に行われている作業療法に理解することができる。				【成績評価の方法と基準】 国際教育学の成績判定は6段階評価の対象外科目であり、評価はS(合格)、またはU(不合格)。よって出席状況、課題提出状況で可否を判定する。  出席に関してはほかの科目と同様、既定の授業時間数の10分の7に満たないものについては単位の認定をしない。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本的には昼間部・夜間部合同のグループワーク活動となります。内容が変更となる可能性もあるため、適時アナウンスします。									

## 授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。特に骨・筋・神経を中心とした構造と機能について、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、中枢神経系等の働きについて理解・説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、主に解剖学の授業で学んだ内容を振り返り理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 解剖学の復習8			
	【到達目標】 授業の概要や進め方を理解することができる。					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(体幹、背部の筋)を自分の言葉で説明できる			
2	【授業単元】 解剖学の復習1				10	【授業単元】 解剖学の復習9			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(細胞の構造)を自分の言葉で説明できる。					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
3	【授業単元】 解剖学の復習2				11	【授業単元】 解剖学の復習10			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(組織)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(下肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
4	【授業単元】 解剖学の復習3				12	【授業単元】 解剖学の復習11			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(中枢神経、末梢神経)を自分の言葉で説明できる			
5	【授業単元】 解剖学の復習4				13	【授業単元】 解剖学の復習12			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(間脳、脳幹)を自分の言葉で説明できる			
6	【授業単元】 解剖学の復習5				14	【授業単元】 解剖学の復習13			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(手、下肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(小脳、髄液)を自分の言葉で説明できる			
7	【授業単元】 解剖学の復習6				15	【授業単元】 総復習 定期テスト			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(頭部の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

## 授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
解剖学・生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。特に骨・筋・神経を中心とした構造と機能について、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、中枢神経系等の働きについて理解・説明することができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、主に解剖学の授業で学んだ内容を振り返り理解を深めていきます。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション				9	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習9			
	<b>【到達目標】</b> 授業の概要や進め方を理解することができる。					<b>【到達目標】</b> 心臓について説明することができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習2				10	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習10			
	<b>【到達目標】</b> 脳神経(I～VI)の構造や働きについて理解し説明することができる。					<b>【到達目標】</b> 循環系について説明することができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習3				11	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習10			
	<b>【到達目標】</b> 脳神経(VII～XII)について理解し説明することができる。					<b>【到達目標】</b> 呼吸器について理解し説明することができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習4				12	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習11			
	<b>【到達目標】</b> 神経の伝導路について理解し説明することができる。					<b>【到達目標】</b> 消化器について理解し説明することができる。			
5	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習5				13	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習			
	<b>【到達目標】</b> 自律神経系について説明することができる。					<b>【到達目標】</b> 第9～12回目までの復習をし、学習の定着が不十分な点を理解することができる。			
6	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習6				14	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習12			
	<b>【到達目標】</b> 第1～5回目までの復習をし、学習の定着が不十分な点を理解することができる。					<b>【到達目標】</b> 解剖学の授業の復習をし、定着が不十分な点を理解することができる。			
7	<b>【授業単元】</b> 解剖学・生理学の予習・復習7				15	<b>【授業単元】</b> 総復習 定期テスト			
	<b>【到達目標】</b> 解剖学の授業の復習をし、定着が不十分な点を理解することができる。					<b>【到達目標】</b> 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	<b>【授業単元】</b> 前半のまとめ 中テスト、解剖学・生理学の予習・復習8				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	<b>【到達目標】</b> これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

## 授 業 概 要

科目名	人間発達学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	今  え り		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間	
【授業を通じての到達目標】									
基本的な人間の発達を身体・認知・社会に分けて学び、その中での課題を認識し、作業療法士としてどのように関わっていくかを学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として、15年以上発達障害領域(特別支援学校や児童デイサービスや療育施設、保育園の巡回)で働きつつ、教材開発アドバイザーとして子どもの企業に助言したり、発達障害について勉強会を担当している教員が、小児の発達を中心に、人間の全体的な発達について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
人間発達学					復習として授業で学んだ範囲の部分の教科書を読む				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 人間発達学概論	【到達目標】 ・発達期の区分がわかる ・発達周辺用語を知る ・発達の原則を知る			9	【授業単元】 運動発達(7~9カ月)	【到達目標】 9カ月までの姿勢発達の流れを知る。 脳性まひ児の姿勢と特徴を知る		
	【到達目標】								
2	【授業単元】 心理社会の発達過程	【到達目標】 ・エリクソンの発達理論を知る ・ピアジェの発達理論を知る ・フロイトの発達理論を知る			10	【授業単元】 運動発達(10~18カ月)	【到達目標】 18カ月までの姿勢運動発達の流れを知る。 脳性まひ児の姿勢と運動の特徴を知る		
	【到達目標】								
3	【授業単元】 実習(おもちゃ作り)	【到達目標】 乳幼児の年齢を設定し、その乳幼児の発達段階を調べ、興味を持ちそうなおもちゃを作る。			11	【授業単元】 姿勢反射、6歳までのADLの発達	【到達目標】 手指と把握の発達の流れを知る 言語発達の流れを知る 社会性の発達の流れを知る		
	【到達目標】								
4	【授業単元】 乳幼児と触れ合う	【到達目標】 自分が作ったおもちゃで実際に乳幼児と遊んでみる 乳幼児と遊びながら、今まで習ってきた発達の流れなどを確認する			12	【授業単元】 上肢機能の発達	【到達目標】 握りとつまみ動作の発達 操作の発達を知る 目と手の協調性の発達の流れを知る		
	【到達目標】								
5	【授業単元】 発達検査	【到達目標】 ・いろいろな発達検査があることを知る(名前をいくつか覚える) ・デンバー、PEDI、新版K式などの検査の特徴を知る			13	【授業単元】 ADLの発達	【到達目標】 遊びの発達の流れを知る 食事の発達の流れを知る 排泄の発達の流れを知る		
	【到達目標】								
6	【授業単元】 姿勢反射と反応	【到達目標】 ・原始反射とは何かを知る ・主要な原始反射を知る			14	【授業単元】 感覚・知覚・認知・社会性の発達	【到達目標】 感覚統合の概要を知る 共同注意を知る		
	【到達目標】								
7	【授業単元】 運動発達(0~3か月)	【到達目標】 3か月までの姿勢の発達の流れを知る			15	【授業単元】 試験	【到達目標】 今まで習った範囲の確認を行う		
	【到達目標】								
8	【授業単元】 中テスト 運動発達(4~6カ月)	【到達目標】 6カ月までの姿勢発達の流れを知る。 脳性まひ児の姿勢と特徴を知る			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				<p>・講義全体を100点満点とし、中テスト15点、小テスト55点、提出物10点、合わせて80点を半分の40点とし、定期テストを60点とする。合わせて100点満点。 上記の点でA~Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、合計55点とする。 (1回目、3回目、8回目、15回目を除く11回分)</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
わからないことや発達領域、就職などの相談はいつでもしてください。									

## 授 業 概 要

科目名	運動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の動きに関して基本的な知識を習得し、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学、PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート(医歯薬出版)					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1・2	【授業単元】 運動学の勉強方法と授業の進め方 オリエンテーション・バイオメカニクス①・②・③ 小テスト:10点 【到達目標】 この授業での目標・評価・授業の進め方の共有 バイメカ①: 力と重心 バイメカ②: 床反力と身体運動 バイメカ③: 並進運動と運動の法則 上記内容を理解する				17・18	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 上肢帯 小テスト:10点 【到達目標】 運動学ノート2章上肢帯の運動学の範囲を理解する。 筋の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる 小テスト:10点			
3・4	【授業単元】 バイオメカニクス④・⑤・⑥ 小テスト:10点 【到達目標】 バイメカ④: 回転運動とモーメント バイメカ⑤: エネルギーとパワー バイメカ⑥: 運動量と力積 上記内容を理解する				19・20	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 上肢帯 【到達目標】 運動学ノート2章上肢帯の運動学の範囲を理解する。 筋の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる。 小テスト:10点			
5・6	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 上肢 小テスト:10点 【到達目標】 運動学ノート 1章—8・9・14、2章—1の範囲を理解する。 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる				21・22	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 体幹・顔面 【到達目標】 運動学ノート4章上肢帯の運動学の範囲を理解する。 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる			
7・8	四肢と体幹の運動 骨の構造 下肢帯 小テスト:5点 中テスト:15点 【到達目標】 運動学ノート 1章—8・9・14、3章—1の範囲を理解する。 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる				23・24	【授業単元】 生体の構造と機能 運動とエネルギー代謝 【到達目標】 エネルギー代謝の特徴と機能的違いを理解する。 運動学ノート1章—16 の範囲を理解する。			
9・10	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 体幹 小テスト:10点 【到達目標】 運動学ノート 1章—8・9・14、4章—1の範囲を理解する。 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる				25・26	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造の復習 【到達目標】 四肢と体幹の運動 骨の構造の上肢・下肢・体幹について説明できる			
11・12	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨格筋の構造 概論・下肢帯 小テスト:10点 【到達目標】 運動学ノート10・11・12・13の範囲を理解する。 筋の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる				27・28	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造の復習 【到達目標】 四肢と体幹の運動 上肢・下肢・体幹の神経・筋の構造について説明できる			
13・14	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨格筋の構造 下肢帯後半 小テスト:10点 【到達目標】 運動学ノート3章 下肢帯の運動学の範囲を理解する。 筋の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようになる				29・30	【授業単元】 29:これまでの復習時間 30:定期試験・振り返り 後半 【到達目標】			
15・16	【授業単元】 15:これまでの復習時間 16:定期試験(60点)・振り返り 前半 【到達目標】 バイオメカニクスの基本事項・運動学用語の知識 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にする				【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 時期:定期テスト(16回目・30回目) 配点方法:定期試験60点、小テスト・中テスト等40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。積極的に授業に参加すること。									

## 授 業 概 要

科目名	運動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<p>人体の身体運動について学び、分析することができる。正常な運動について説明ができる。動作分析の視点をみにつける事ができる。</p>									
<p>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切に講義を展開していく。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学、PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート(医歯薬出版)					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 運動の中樞神経機構  【到達目標】 意図的な運動行動には、中枢神経系全体が関与していることを理解する。 ノートまとめ部分				9	【授業単元】 歩行 歩行周期と走行との違い  【到達目標】 歩行についての基礎を学び、観察・分析が行える様に備える。運動学ノートP212～229・P239～241			
2	【授業単元】 運動発達  【到達目標】 運動発達と反射の統合 ノートまとめ部分				10	【授業単元】 歩行 観察・分析  【到達目標】 歩行のメカニズムをもとに、歩行を観察し分析できる様になる。運動学ノートP212～229			
3	【授業単元】 運動学習 運動学ノートP244～254  【到達目標】 運動学習の概要を理解する 運動学ノートP244～254を理解する				11	【授業単元】 小児および異常歩行  【到達目標】 小児および異常歩行の特徴を理解する。 運動学ノートP230～237			
4	【授業単元】 運動の呼吸と循環  【到達目標】 運動学ノートP67～69				12	【授業単元】 予備日  【到達目標】 これまでの授業の進行状況をみて遅れている場合は補填する			
5	【授業単元】 姿勢  【到達目標】 姿勢の基本について理解し、観察・分析に繋げることができる。 運動学ノートP202～210				13	【授業単元】 ランドマークの触診と筋の触察 上肢・体幹  【到達目標】 上肢・体幹の触察ができるようになる。			
6	【授業単元】 運動と動作の分析 寝返り動作  【到達目標】 寝返り動作について、理解し必要な評価が行える ノートまとめ部分				14	【授業単元】 ランドマークの触診と筋の触察 下肢・骨盤  【到達目標】 下肢・骨盤の触察ができるようになる。			
7	【授業単元】 運動と動作の分析 起き上がり動作 起き上がり動作  【到達目標】 起き上がり動作について、理解し必要な評価が行える ノートまとめ部分				15	【授業単元】 定期試験 60点  【到達目標】 ノートまとめ部分と運動学ノートの範囲			
8	【授業単元】 起立・着座 動作  【到達目標】 起立・着座 動作について、理解し必要な評価が行える ノートまとめ部分				【成績評価の方法と基準】 評価方法:レポート・定期テスト(15回目実施) 配点方法:定期試験60点、 中テスト・小テスト40点				
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。									

## 授 業 概 要

科目名	解剖学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
人体の構造をミクロ、マクロの両視点から捉え、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的知識を身に着ける									
<b>【学習内容】</b>									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓器官系にわけてわかりやすく解説する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学入門 細胞の構造と機能				17	【授業単元】 体幹背部の筋 上肢帯の筋			
2	【到達目標】 ・人体各部の名称、解剖学的な方向用語を表記できる ・人体の最小構成単位である細胞の基本構造を説明できる ・主な細胞小器官の役割を説明できるようになる				18	【到達目標】 ・浅背筋、深背筋の区分、起始、停止、作用を説明できる ・固有背筋・脊柱起立筋を説明できる ・上肢帯の筋(肩関節の運動に関わる筋)の起始、停止、作用を説明できるようになる			
3	【授業単元】 細胞分裂と人体の発生 人体の構成要素:上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織				19	【授業単元】 上肢の筋 胸壁、腹壁を構成する筋 骨盤の筋			
4	【到達目標】 ・体細胞と生殖細胞の分裂機構を説明できる ・人体の発生過程(受精～着床～胚盤形成～胚子発生)の概略を説明できる ・人体を構成する四大組織の特徴を説明できるようになる				20	【到達目標】 ・上腕の筋と前腕の筋を説明できる ・手根管と手根管を通過する構造を説明できる ・手の内在筋を説明できるようになる			
5	【授業単元】 骨の構造 骨の連結と人体骨格				21	【授業単元】 下肢帯の筋 下肢の筋			
6	【到達目標】 ・骨の基本構造、発生、成長様式を説明できる ・骨格を構成する骨の連結様式を説明できる ・関節の基本構造と多様性を説明できる ・関節の補助装置を説明できるようになる				22	【到達目標】 ・下肢帯の筋(内寛骨筋と外寛骨筋)を説明できる ・大腿と下腿の筋を説明できる ・足の内在筋を説明できる			
7	【授業単元】 脊柱と椎骨 胸郭を構成する骨 骨盤の骨				23	【授業単元】 頭部の筋、頸部の筋 【神経系】 神経系の発生と構成(中枢神経系/末梢神経系、体性神経系/自律神経系)			
8	【到達目標】 ・脊柱の弯曲とその機能的意義を説明できる ・頸椎、胸椎、腰椎における椎骨の形態的特徴を説明できる ・胸郭と骨盤を構成する骨を説明できるようになる				24	【到達目標】 ・浅頭筋(表情筋)、深頭筋(咀嚼筋)を説明できる ・浅頸筋、舌骨上筋、舌骨下筋を説明できる ・神経系の概要と発生の仕組みを説明できる ・中枢神経系、末梢神経系の構成と役割を説明できるようになる			
9	【授業単元】 上肢帯の骨 自由上肢骨 肩関節と肘関節				25	【授業単元】 大脳 間脳(視床、視床下部)			
10	【到達目標】 ・上肢帯を構成する骨を説明できる ・上肢帯と体幹との連結部位がわかる ・自由上肢骨の基本構造がわかる ・肩関節と肘関節の構造を説明できる				26	【到達目標】 ・大脳の基本構造を説明できる ・大脳皮質の組織構築と機能局在を説明できる ・大脳髓質の線維走行と大脳基底核を説明できる ・間脳の構成と機能の概略を説明できるようになる			
11	【授業単元】 手の骨 下肢の骨 下肢の関節				27	【授業単元】 ・脳幹(中脳、橋、延髄) ・小脳			
12	【到達目標】 ・手根骨、中手骨、指骨の配列と関節の特徴を説明できる ・橈骨手根関節の特徴を説明できる ・大腿と下腿の骨、足の骨の基本構造と連結装置を説明できる				28	【到達目標】 ・脳幹(中脳、橋、延髄)の基本構造を説明できる ・脳幹を貫く下行性、上行性伝導路を説明できる ・小脳の基本構造と主な線維連絡を説明できるようになる			
13	【授業単元】 頭部・顔面の骨				29	【授業単元】 定期試験			
14	【到達目標】 ・頭部と顔面を構成する骨の形態と配置、連結様式を説明できる ・副鼻腔を持つ骨を挙げることができる ・顎関節の構造と関節運動の特徴を説明できる				30	【授業単元】 脳の被膜(硬膜、クモ膜、軟膜) 髄液の産生と循環路 【到達目標】 脳の被膜の構造と機能、髄液の産生の仕組みと流路を説明できるようになる			
15	【授業単元】 中テスト				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【筋学総論】講義 筋の分類と微細構造 骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類 【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の違いを説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類することができるようになる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習しておくことを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。									

## 授 業 概 要

科目名	解剖学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
人体の構造をミクロ、マクロの両視点から捉え、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的知識を身に着ける									
<b>【学習内容】</b>									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓器官系にわけてわかりやすく解説する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 脳に分布する動脈(内頸動脈系と椎骨動脈系) 脳の静脈血の流路 脳の毛細血管				9	【授業単元】 呼吸器系			
	【到達目標】 ・内頸動脈系と椎骨動脈系の走行と分布域を説明できる ・脳内出血の好発部位を説明できる ・脳の静脈血の流路を説明できる ・血液脳関門を説明できる					【到達目標】 ・上気道、下気道、呼吸部を区別し各部の構造の特徴を説明できる ・肺と気管支の左右差を説明できる ・肺の機能動脈と栄養動脈を説明できる			
2	【授業単元】 脊髄の基本構造 脊髄の伝導路 脊髄と脊髄神経の線維連絡				10	【授業単元】 消化器系① 消化器系の構成 口腔の構造と機能			
	【到達目標】 ・脊髄の基本構造を説明できる ・脊髄と脊髄神経の線維連絡を説明できる ・上行性、下行性伝導路の概要を説明できるようになる					【到達目標】 ・消化器系の概要を説明できる ・口腔の構造と機能を説明できる			
3	【授業単元】 末梢神経系(脳神経と脊髄神経) 脳神経① 第Ⅰ～第ⅤⅠ脳神経				11	【授業単元】 消化器系② 消化管の構造と機能			
	【到達目標】 ・第Ⅰ～第ⅤⅠ脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる					【到達目標】 ・食道～肛門に至る消化管各部の構造の違いを機能と関連付けて説明できる			
4	【授業単元】 脳神経② 第ⅤⅠⅠ～第ⅩⅠⅠ脳神経				12	【授業単元】 消化管の付属器(付属腺)			
	【到達目標】 ・第ⅤⅠⅠ～第ⅩⅠⅠ脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる					【到達目標】 ・肝臓、胆嚢、膵臓の基本構造がわかる ・肝臓、胆嚢、膵臓の分泌管とその開口部を説明できる ・消化器系の血液循環の特徴を説明できる			
5	【授業単元】 脊髄神経① 頸神経、胸神経 頸神経叢、腕神経叢				13	【授業単元】 泌尿器系			
	【到達目標】 ・頸神経と胸神経後枝の支配域を説明できる ・頸神経叢、腕神経叢の線維構成と支配域を説明できる					【到達目標】 ・腎臓の基本構造を理解し、尿生産の仕組みを説明できるようになる ・尿路(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)を説明できる			
6	【授業単元】 脊髄神経② 腰神経、仙骨神経 腰神経叢、仙骨神経叢				14	【授業単元】 後期学習内容の整理			
	【到達目標】 ・腰神経、仙骨神経後枝の支配域を説明できる ・頸神経叢、腕神経叢の線維構成と支配域を説明できる					【到達目標】 ・後期の学習内容を整理/確認して最終試験に備える			
7	【授業単元】 自律神経系				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・交感神経系ニューロンと副交感神経系ニューロンの局在性の特徴を説明できる ・交感神経系と副交感神経系における自律神経筋の局在性の違いを説明できる ・自律神経系における知覚ニューロンの求心路を説明できる					【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する			
8	【授業単元】 中テスト 神経系補足講義				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・中テストで後前半の履修内容を十分に理解していることを示す								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習してくることを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。									

## 授 業 概 要

科目名	生理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
生理学の基礎知識を身につけることができる。 生理学の知識を他の科目へ波及して考えることができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。復習も取り入れながら授業を進め、知識の定着を図ります。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					授業内容の予習・復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1,2	【授業単元】 オリエンテーション 人体の機能と構造				17,18	【授業単元】 筋と骨			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる。 人体のおおまかな機能と構造が理解できる。					【到達目標】 筋の収縮について理解できる。 骨吸収と骨形成について理解できる。			
3,4	【授業単元】 浸透圧、水分、体温				19,20	【授業単元】 感覚			
	【到達目標】 浸透圧について理解できる。 体温調節について理解できる。					【到達目標】 体性感覚について理解できる。 特殊感覚について理解できる。			
5,6	【授業単元】 細胞の構造と機能 膜電位				21,22	【授業単元】 血液①			
	【到達目標】 細胞の構造と機能について理解できる。 静止電位と活動電位の違いが理解できる。					【到達目標】 血液の組成と機能について理解できる。			
7,8	【授業単元】 神経の興奮伝導				23,24	【授業単元】 血液②			
	【到達目標】 神経の伝導について理解できる。					【到達目標】 血液の組成と機能について理解できる。			
9,10	【授業単元】 末梢神経				25,26	【授業単元】 心臓と循環①			
	【到達目標】 自律神経について理解できる。 末梢神経の構造について理解できる。					【到達目標】 血液循環について理解できる。 心臓の働きについて理解できる。			
11,12	【授業単元】 中枢神経系(主に脊髄)				27,28	【授業単元】 心臓と循環②			
	【到達目標】 伝導路や反射について理解できる。					【到達目標】 血液循環について理解できる。 心臓の働きについて理解できる。			
13,14	【授業単元】 中枢神経系(主に脳)				29,30	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 脳の機能局在について理解できる。 脳の働きについて理解できる。					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
15,16	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

## 授 業 概 要

科目名	生理学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生理学の基礎知識を理解できる。 生理学の知識を他の科目に活かすことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。生理学の知識を使って、生体反応を説明できるように講義とグループワークを用いて進めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					授業内容の予習・復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 呼吸とガスの運搬①				9	【授業単元】 内分泌①			
	【到達目標】 呼吸器について理解できる。 ガス交換について理解できる。					【到達目標】 ホルモンの効果と分泌部位について理解できる			
2	【授業単元】 呼吸とガスの運搬② 測定機器の体験				10	【授業単元】 内分泌②			
	【到達目標】 呼吸器について理解できる。 ガス交換について理解できる。					【到達目標】 ホルモンの効果と分泌部位について理解できる			
3	【授業単元】 尿の生成と排泄①				11	【授業単元】 生殖と発生			
	【到達目標】 腎臓の機能について理解できる。					【到達目標】 生殖機能について理解できる。 分娩に至る過程について理解できる。			
4	【授業単元】 尿の生成と排泄②				12	【授業単元】 成長と老化、運動生理			
	【到達目標】 腎臓の機能について理解できる。					【到達目標】 成長と老化の過程について理解できる。 運動生理のメカニズムについて理解できる。			
5	【授業単元】 消化と吸収①				13	【授業単元】 総復習①(前期編)			
	【到達目標】 各消化管の消化メカニズムについて理解できる。					【到達目標】 主に後期の内容について総復習することで、学習の理解度を確認し、知識の定着を図る。			
6	【授業単元】 消化と吸収②				14	【授業単元】 総復習②(後期編)			
	【到達目標】 各消化管の消化メカニズムについて理解できる。					【到達目標】 主に後期の内容について総復習することで、学習の理解度を確認し、知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 栄養と代謝				15	【授業単元】 総復習③ 定期テスト			
	【到達目標】 各栄養素の意義と代謝について理解できる。					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認し、知識の定着を図る。			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

## 授 業 概 要

科目名	一般臨床医学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び理解できること									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(18年目)が、臨床現場で必要となる日常生活活動論・手段的日常生活活動論を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 医学概論(医学の基本、疾病の概念)				9	【授業単元】 中枢神経の障害と臨床医学			
	【到達目標】 医学の歴史について説明できる、生命倫理について説明できる、医の倫理について説明できる、疾病の定義と分類について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる			
2	【授業単元】 臨床医学総論(病理学概論、疾病の診断、疾病の治療)				10	【授業単元】 末梢神経・筋の障害と臨床医学			
	【到達目標】 疾病の原因と身体的変化を理解する、疾病診断の概要を理解する、疾病治療の概要を理解する					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる			
3	【授業単元】 リハビリテーション医療の総論、健康と生活機能の評価、リハビリテーション計画 チームと他職種連携				11	【授業単元】 小児の障害と臨床医学			
	【到達目標】 リハビリテーション医学の概要について理解する、健康と生活機能に関わる評価について理解する、リハビリテーション計画について理解する、リハビリテーションチームと他職種連携について理解する、かつそれぞれについて説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、小児の障害の一般的疾患について説明できる			
4	【授業単元】 救急医学				12	【授業単元】 内部障害と臨床医学			
	【到達目標】 救急医療体制について説明できる、症候群について説明できる、心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、各内部障害の一般的疾患について説明できる			
5	【授業単元】 臨床心理学(基礎理論、発達心理および臨床心理)				13	【授業単元】 がん関連障害と臨床医学			
	【到達目標】 人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ 臨床心理学の基礎について理解する 発達に沿った心理と心理療法について理解する					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、がん関連障害の一般的疾患について説明できる			
6	【授業単元】 精神障害と臨床医学				14	【授業単元】 皮膚障害と臨床医学			
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、精神障害の一般的疾患について説明できる					【到達目標】 疫学について説明できる、病理・病態・症候について説明できる、評価・検査について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる			
7	【授業単元】 骨関節障害と臨床医学				15	【授業単元】 老年期障害と臨床医学			
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、骨関節疾患の一般的疾患について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、老年期障害の一般的疾患について説明できる			
8	【授業単元】 痛みと臨床医学				【成績評価の方法と基準】 ○科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 ○試験はteams上で行う(記述or選択式 詳細は授業時間内、teams上でアナウンスを行う)。 ○授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする(40点)。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、慢性疼痛の分類について説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国試や臨床に出た際に必要になる知識ですので積極的な参加を期待します。分からないことがあれば授業時やteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	臨床心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。教育関係の仕事も同時に取り組んでおり、今年で10年目となる。現在は障害者の就労支援を行う事業所も経営している。本科目では、私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】 リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂					【授業時間外における学習】 授業内容の復習。 ・誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 心理アセスメントと心理検査 ③			
	【到達目標】 この科目の進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。					【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。			
2	【授業単元】 対人関係について考えてみよう ①				10	【授業単元】 心理療法について学ぼう ①			
	【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 クライアント中心療法について、簡潔に説明できる。			
3	【授業単元】 対人関係について考えてみよう ②				11	【授業単元】 心理療法について学ぼう ②			
	【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 森田療法について、簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 対人関係について考えてみよう ③				12	【授業単元】 心理療法について学ぼう ③			
	【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 認知行動療法について簡潔に説明できる。			
5	【授業単元】 対人援助の過程で起こること ①				13	【授業単元】 国家試験の対策をしよう ①			
	【到達目標】 防衛機制について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 国家試験の問題(臨床心理学)が解ける。			
6	【授業単元】 対人援助の過程で起こること ②				14	【授業単元】 国家試験の対策をしよう ②			
	【到達目標】 転移・逆転移について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 国家試験の問題(臨床心理学)が解ける。			
7	【授業単元】 心理アセスメントと心理検査 ①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。					【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 心理アセスメントと心理検査 ②				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A~Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2~14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点)  ①と②の合計で100点満点。  ※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。				
	【到達目標】 心理アセスメント・心理検査について簡潔に説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 本科目は「心理学」をさらに専門的にした内容です。 内容が前期よりも難しくなりますが、集中してしっかりと受講して下さい。									

## 授 業 概 要

科目名	リハビリテーション概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
リハビリテーションの理念、歴史、目的をはじめに医学的・社会的・教育的リハビリテーションを総合的に理解することにより、リハビリテーションにおける作業療法の位置について説明できるようになる。ICIDHとICFの思想、個人モデルと社会モデルについて理解できるようになる。リハビリテーションの過程と諸相について理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っていきます。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版 永井書店 参考図書 適宜授業内で紹介します。					習得した知識を臨床場面に活かせるように意識しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 リハビリテーションの概要・理念・定義について					【授業単元】			
	【到達目標】 上記についての知識を得ることができる リハビリテーションを学ぶことへの重要性を感じ、モチベーションを高めることができる					【到達目標】			
2	【授業単元】 健康と障害の概念と分類について					【授業単元】			
	【到達目標】 健康、疾病、病気とはなにか、自身の言葉で表現できるようになる 疾病と障害の分類について知識を得ることができる ICFに基づく治療アプローチについてイメージを持つことができる					【到達目標】			
3	【授業単元】 リハビリテーション過程について					【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーション過程について理解することができる リハビリテーション過程の実際をイメージすることができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 他職種とチームアプローチについて					【授業単元】			
	【到達目標】 他職種について理解できる チームアプローチの重要性について理解できる チームアプローチを実践するために必要なことについて、自身の考えを持つことができる					【到達目標】			
5	【授業単元】 ADL・QOLの概念と評価法について					【授業単元】			
	【到達目標】 ADL・QOLの概念についての知識を得ることができる ADL・QOLの評価についての知識を得ることができる 自身における評価を実践できる 他者における評価を行う際に必要な事項について考えることができる					【到達目標】			
6	【授業単元】 地域リハビリテーションと社会資源について					【授業単元】			
	【到達目標】 地域リハビリテーションと社会資源について知識を得ることができる 上記における作業療法士の役割について考えることができる					【到達目標】			
7	【授業単元】 高齢者・健康対策と少子化対策について 医療・福祉制度について					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢化・健康・少子化対策について知識を得ることができる 医療・福祉制度について知識を得ることができる 上記から、現社会において作業療法士に求められるスキルについて考えることができる					【到達目標】			
8	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説					<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点(1～7回のうち、どれか1回分は10点満点)、定期テストは60点満点とする。毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
自身・他者に興味を持ちましょう。作業療法評価に必要な視点について学び、現場での実践に備えましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	職業リハビリテーション	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
ICFにおける「生産活動」及び就労、仕事などに関わる概念を理解することで、就労支援と生活支援の意味を理解し、実際の地域活動に参加できる能力を身につける。心理社会的発達における生産性と世代性、キャリア形成論などを理解し、人にとって職業及び働くことの意味について様々な観点から理解を深める。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
就労支援の作業療法 基礎から臨床実践まで 医歯薬出版 参考図書 適時授業内で紹介します。					授業内で提示した課題への取り組みを積極的に行いましょう。 就労支援について関心を持ち、自ら積極的に情報収集をしていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 就労支援の実践について①					【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援における歴史、法、現状、資源について理解できる					【到達目標】			
2	【授業単元】 就労支援の実践について②					【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援における歴史、法、現状、資源について理解できる					【到達目標】			
3	【授業単元】 就労支援の基礎概念について①					【授業単元】			
	【到達目標】 人との関わり、社会での役割、働くことの意味について検討し自身の考えを持つことができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 就労支援の基礎概念について②					【授業単元】			
	【到達目標】 人との関わり、社会での役割、働くことの意味について検討し自身の考えを持つことができる					【到達目標】			
5	【授業単元】 身体障害領域での就労支援について					【授業単元】			
	【到達目標】 身体障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
6	【授業単元】 精神障害領域での就労支援について					【授業単元】			
	【到達目標】 精神障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
7	【授業単元】 知的・発達障害/司法・地域での就労支援について					【授業単元】			
	【到達目標】 知的・発達障害/司法・地域における就労支援に必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
8	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説					<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 小テスト・定期テストの点数合計時、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	社会福祉概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保険論、障害者福祉論、社会福祉法制の基盤と社会福祉の機構について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床19年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける社会福祉の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コメディカルのための社会福祉概論／講談社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉とは 日本の社会福祉の歴史  【到達目標】 社会福祉という用語は多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。				9	【授業単元】  【到達目標】			
2	【授業単元】 社会制度と社会制度を展開する組織 小テスト  【到達目標】 社会保障制度の体系・社会保険・公的扶助・社会福祉を展開する組織について理解する。子供を取り巻く社会状況、施策について理解する。				10	【授業単元】  【到達目標】			
3	【授業単元】 様々な領域で活躍する先輩作業療法士 小テスト  【到達目標】 高齢期・地域・海外・災害支援それぞれで活躍する卒業生作業療法士の生の声から、なりたい自分の作業療法士像を具体的にイメージする				11	【授業単元】  【到達目標】			
4	【授業単元】 障がい者福祉 小テスト  【到達目標】 ICFから障がいを捉える。またノーマライゼーションから影響された我が国の施策について考える				12	【授業単元】  【到達目標】			
5	【授業単元】 障がい者福祉の現行法 小テスト  【到達目標】 障がい者福祉の現行法を学ぶ 障害者総合支援法から補装具・日常生活用具について理解する				13	【授業単元】  【到達目標】			
6	【授業単元】 高齢者福祉 小テスト  【到達目標】 高齢者を取り巻く状況と施策を学ぶ 認知症施策推進大綱から考える高齢者施策について理解する				14	【授業単元】  【到達目標】			
7	【授業単元】 子供福祉 小テスト  【到達目標】 子供を取り巻く社会状況、施策について理解する				15	【授業単元】  【到達目標】			
8	【授業単元】 認知症への施策 テスト  【到達目標】 超高齢化が進む現在、住み慣れた地域で最後まで安心して暮らすために我々はどのように取り組むべきかを理解する				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。  小テスト:6コマ = 40点 テスト: = 60点				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
初めての専門用語が多いですが都度しっかり理解しましょう。					(計 100点満点)				

## 授 業 概 要

科目名	基礎作業学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の概念を理解することで、作業療法が作業に基づく実践であることを多角的に説明する能力を身につける</li> <li>・作業の定義、作業の目的別区分(生産活動、遊び、セルフケア)について理解する</li> <li>・作業・活動分析の目的と形式を理解する</li> <li>・「作業科学」の基礎を学び、人文学的に作業の意味を理解する</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
教員は、身障領域、精神領域、発達領域、高齢者領域の経験も含めたOT32年目すべての領域に共通する「作業」について考え、「作業」の理論を学ぶことで作業療法士が作業を用いる意味を教えていく									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)、メジカルビュー社、2021					作業療法における「作業」「作業理論」を理解できるようにテキスト、授業資料にて自己学習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 作業学総論				9	【授業単元】 人間作業モデルと作業			
	【到達目標】 ・作業の必要性と意義について理解する ・作業を用いた療法に関連する基本的事項について理解する					【到達目標】 MOHO・作業適応について理解する			
2	【授業単元】 作業分析				10	【授業単元】 精神分析と作業			
	【到達目標】 ・作業分析について理解する ・作業の項目について理解する ・作業分析をもとに作業を評価的に用いることについて理解する					【到達目標】 人の心について理解する			
3	【授業単元】 治療への応用:身体障害				11	【授業単元】 認知行動療法と作業			
	【到達目標】 ケーススタディによって身体障害領域の作業について理解する					【到達目標】 SSTなどについて理解する			
4	【授業単元】 治療への応用:精神障害				12	【授業単元】 カナダ作業遂行モデル			
	【到達目標】 ケーススタディによって精神障害領域の作業について理解する					【到達目標】 人・作業・環境の相互作用について理解する			
5	【授業単元】 治療への応用:発達障害				13	【授業単元】 感覚統合と作業			
	【到達目標】 ケーススタディによって発達障害領域の作業について理解する					【到達目標】 感覚統合理論・感覚刺激と発達について理解する			
6	【授業単元】 治療への応用:高齢障害者				14	【授業単元】 MTDLPと作業			
	【到達目標】 ケーススタディによって高齢障害領域の作業について理解する					【到達目標】 生活行為とそのマネジメントツールについて理解する			
7	【授業単元】 治療への応用:老健				15	【授業単元】 定期テスト 内容振り返り			
	【到達目標】 ケーススタディによって老健領域の作業について理解する					【到達目標】 第9回～14回までの作業の理解を深める			
8	【授業単元】 中テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1～7回までの作業についての理解を深める								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
基礎作業学実習と合わせて理解できるようテキストにて予習・復習しておく									

## 授 業 概 要

科目名	作業療法理論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
リハビリテーションにおける作業療法士の意義と作業療法士の役割を把握することができる 作業療法士になるために学ばなければならないことの概略と理論を把握し、学習意欲を高めることができる									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
教員は、身障領域、精神領域、発達領域、高齢者領域の経験も含めたOT32年目 すべての領域に共通する「作業」について考え、「作業」の理論を学ぶことで作業療法士が作業を用いる意味を教えていく									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
作業療法概論 第4版(医学書院)					事前に教科書など確認必要				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 I. 作業療法の紹介①				9	【授業単元】 IV. 作業療法の実践過程①			
	【到達目標】 「作業」の意味について理解し、説明できる 作業療法の歴史と原理を理解できる					【到達目標】 作業療法の仕組み・評価と問題点の抽出について理解 できる			
2	【授業単元】 I. 作業療法の紹介②				10	【授業単元】 IV. 作業療法の実践過程②			
	【到達目標】 作業療法に関連する予備知識・作業療法の実践現場に ついて理解できる					【到達目標】 治療プログラムの立案・フォローアップ・臨床的思考過程 と作業療法士の自己活用について理解し、説明できる			
3	【授業単元】 II. 作業の分析と治療への適用				11	【授業単元】 III. 作業療法士の養成と教育①			
	【到達目標】 作業の分析について理解し、説明できる 作業の治療的適用・作業療法の理論について理解できる					【到達目標】 作業療法士に求められる資質と倫理・作業療法士の教育・作業 療法研究とエビデンス・日本作業療法士協会とその役割・世界 作業療法士連盟とその役割について理解できる			
4	【授業単元】 V. 作業療法の実際①				12	【授業単元】 III. 作業療法士の養成と教育②			
	【到達目標】 身体機能分野における作業療法の実際について理解で きる					【到達目標】 7/14(日)東京都作業療法学会に参加し、職能団体の活 動・学術(研究)活動について、体感・理解できる			
5	【授業単元】 V. 作業療法の実際②				13	【授業単元】 III. 作業療法士の養成と教育③			
	【到達目標】 精神機能分野における作業療法の実際について理解で きる					【到達目標】 7/14(日)東京都作業療法学会に参加し、職能団体の活 動・学術(研究)活動について、体感・理解できる			
6	【授業単元】 V. 作業療法の実際③				14	【授業単元】 VI. 作業療法の管理運営			
	【到達目標】 発達過程分野における作業療法の実際について理解で きる					【到達目標】 社会保障制度の理解・作業療法部門の管理運営・作業 療法の記録と報告について理解し、説明できる			
7	【授業単元】 V. 作業療法の実際④				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト			
	【到達目標】 高齢期分野における作業療法の実際について理解で きる					【到達目標】 これまでの学びについて振り返ることができる			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の 配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整 数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半の学びを振り返ることができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
将来作業療法士となる自覚を持ち、作業療法への理解を深 め、自身の目標とする作業療法士像を形作っていきましょう									

## 授 業 概 要

科目名	基礎作業学実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・大橋航祐・徳備夏子		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法の治療手段であり目的でもある作業活動を行うことを通じて、その基礎的な知識と技術を習得する</li> <li>・作業活動の実際において協働や参加の意義を感得し表現する</li> <li>・生活行為マネジメントについて理解する。地域における音楽・美術・スポーツ・文芸・手工芸活動等の文化活動のいずれかに参加する</li> <li>・作業・活動分析を実際に行うことができる</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
教員は、身障領域、精神領域、発達領域、高齢者領域の経験も含めたOT32年目すべての領域に共通する「作業」について考え、「作業」の理論を学ぶことで作業療法士が作業を用いる意味を教えていく									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト).マジカルビュー社, 2021					各回における作業課題を作業分析し実施手順、作業特性を理解できるように自己学習をする				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1-3	【授業単元】 <b>作業(手工芸)とは</b>				24-27	【授業単元】 <b>陶芸②</b>			
	【到達目標】 手工芸の種類、意味などについて理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
4-6	【授業単元】 <b>折り紙</b>				28-30	【授業単元】 <b>和紙細工</b>			
	【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
7-9	【授業単元】 <b>革細工</b>				31-33	【授業単元】 <b>ちぎり絵</b>			
	【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
10-12	【授業単元】 <b>国際福祉機器展</b>				34-36	【授業単元】 <b>特別支援学校見学(仮)</b>			
	【到達目標】 東京ビッグサイトに行って、人の作業に関する福祉機器を見て学ぼう					【到達目標】 特別支援学校を見学して、子どもたちの特別支援教育を見て学ぼう			
13-15	【授業単元】 <b>陶芸①</b>				37-39	【授業単元】 <b>タイルモザイク</b>			
	【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
16-18	【授業単元】 <b>七宝焼</b>				40-42	【授業単元】 <b>絵画</b>			
	【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
19-21	【授業単元】 <b>木工</b>				43-45	【授業単元】 <b>定期テスト</b>			
	【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 基礎作業学についての国家試験問題や小論文を通して、作業に対する理解を深める			
22-24	【授業単元】 <b>中テスト</b>				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 基礎作業学についての国家試験問題を通して、道具や材料などの理解を深める								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
作品作成に時間をかけて欲しいので、余裕のあるスケジュールになっていますが、作品の完成スピードによってはスケジュールを変更するかもしれません。									

## 授 業 概 要

科目名	身体運動系評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋 航祐	
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
身体運動系評価を正しい方法で、正確な検査結果、評価を得ることができる。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。整形外科疾患の理解と同時に、その土台となる基礎知識の振り返りを徹底しながら特に解剖運動学との科目間のつながりを深める。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
身体運動系評価学第4版					授業で提示する基礎課題の反復学習を推奨します。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション			9	<b>【授業単元】</b> 筋力検査①			
	<b>【到達目標】</b> 作業療法における評価について知り、理解することができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 面接法・観察法			10	<b>【授業単元】</b> 筋力検査②			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 意識の評価とバイタルサイン			11	<b>【授業単元】</b> 筋緊張検査・反射検査			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 形態計測			12	<b>【授業単元】</b> 姿勢反射検査・バランス機能検査			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
5	<b>【授業単元】</b> 関節可動域測定①			13	<b>【授業単元】</b> 協調性検査			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
6	<b>【授業単元】</b> 関節可動域測定②			14	<b>【授業単元】</b> 上肢機能検査			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> 感覚・知覚検査			15	<b>【授業単元】</b> 復習 定期テスト			
	<b>【到達目標】</b> 検査目的を理解し、正しい検査方法で実施することができる。検査の背景にある基礎知識(解剖学等)と関連付けることができる。				<b>【到達目標】</b> これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8	<b>【授業単元】</b> 中テストと振り返り			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	<b>【到達目標】</b> これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 自身の理解度、習得度を把握することができる。							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
主体的に参加する								

## 授 業 概 要

科目名	精神心理系評価学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未	
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
主に精神障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。相互対話的リズニングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 最新版 医学書院 参考図書 適宜授業内で紹介します。					演習を通しながら、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 評価とは 自身を評価してみよう/認知特性について			9	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：HDS-R/MMSE			
	【到達目標】 作業療法に必要な評価について理解することができる 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
2	【授業単元】 自身を評価してみよう 意欲、ストレス、気分：Vitality Index、やる気スコア、SDS、GSES			10	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：HDS-R/MMSE			
	【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
3	【授業単元】 自身・他者を評価してみよう 気分の評価について			11	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：コース立方体			
	【到達目標】 評価ツールを通して、自分、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
4	【授業単元】 他者を評価してみよう 評価に必要なコミュニケーション技法について			12	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：コース立方体、MoCA			
	【到達目標】 他者を知るためのコミュニケーション技法について理解し実践できるようになる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価の手順について確認できる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
5	【授業単元】 他者を評価してみよう 面接について			13	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう①			
	【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる			
6	【授業単元】 他者を評価してみよう 観察について			14	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう②			
	【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる			
7	【授業単元】 他者を評価してみよう 作業面接・観察について			15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 記録の仕方について学ぶことができる 作業の様子を観察することができる				【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
自身・他者に興味を持ちましょう。作業療法評価に必要な視点について学び、現場での実践に備えましょう。								

## 授 業 概 要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	二瓶太志		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

ICFにおける生活機能を概観し、日常でその生活機能に支障があった場合の改善策について理解し、工夫の方法を学ぶ。  
 作業療法の視点から日常生活活動を理解し述べるができる。日常生活動作の各活動について分析し特性を説明する。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる。日常生活活動の定量評価について学び測定することができる。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べるができる。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

作業療法士として3年間急性期、7年間回復期を経験し、その後リハビリテーション部の責任者として2度の回復期リハビリテーション病院の開設に関わり、20年目の今もなお、幅広く臨床現場で多くの患者治療やセラピスト指導に携わっている教員が、日常生活動作についての基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。実際の症例を紹介しながら、日常生活の実際や回復過程に触れる機会を設けていく。感染管理を行いながら、可能な限り、実演や実技、グループワークも活用して授業を進めていく。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

ADLとその周辺、ADL (PT・OTビジュアルテキスト)、作業療法技術学3日常生活活動、PT・OT・STのための脳損傷後の回復期リハビリテーション

### 【授業時間外における学習】

小テスト、定期テストに向けた復習

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】6/13 1. 日常生活活動の評価と目的 2. BI、FIMについて講義と演習①</p> <p>【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる</p>		
2	<p>【授業単元】6/20 1. BI、FIMについて講義と演習② 2. AMPS、COPM、QOL評価</p> <p>【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる</p>		
3	<p>【授業単元】6/27 脳卒中者のADLの実際を知る 入院生活で困ったこと 食事動作、整容動作、排泄動作、更衣動作、入浴動作の動作観察</p> <p>【到達目標】 脳卒中者のADLの実際を知ることができる 入院生活で困ったことを理解できる</p>		
4	<p>【授業単元】7/4 基本動作について 歩行について</p> <p>【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることができる</p>		
5	<p>【授業単元】7/11 食事動作について 整容動作について</p> <p>【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることができる</p>		
6	<p>【授業単元】7/18 更衣動作について 排泄動作について</p> <p>【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることができる</p>		
7	<p>【授業単元】7/25 入浴動作について IADL動作 調理について</p> <p>【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることができる</p>		
8	<p>【授業単元】8/1 復習と定期テスト</p> <p>【到達目標】 これまでの学習について復習しアウトプットできる これまでの学びについて、どの程度習得できたか知り、今後の学びに活かすことができる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>

### 【履修に当たっての心構え・留意点】

適宜、実技を行うため、毎回動きやすい服装で受講してください。講師や仲間とのディスカッションを通して理解を深めていきますので、積極的な発言を期待しています。授業前後、実技前後の手指衛生、マスク・ゴーグル着用し、実技はペアを固定し、15分以内に行うなど、感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。

## 授 業 概 要

科目名	地域作業療法学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを学び、地域包括ケアの概念の中で作業療法士の果たす役割について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、地域医療・福祉における知識を伝え、作業療法士が求められる役割やスキルについて自身の考えを持つことができるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 改訂第2版 メジカルビュー社 参考図書 適宜授業内で紹介します。					予習・復習を行い知識の定着を図りましょう。得た知識から、今後作業療法士となる自身にとってどんなスキルや働きが求められるかを考えながら学びましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 地域の生活と地域作業療法について  【到達目標】 地域の生活について考えることができる 地域リハビリテーションの経緯と理念について知識を得ることができる 地域における障害児の環境について理解できる 就労支援について知識を得ることができる				9	【授業単元】 社会資源と実践 認知症、障害者グループホーム、  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる			
2	【授業単元】 作業療法士が関わる法規・制度についての知識を得ることができる  【到達目標】 作業療法士が関わる法規・制度についての知識を得ることができる 上記における作業療法士の働き、役割についてイメージを持つことができる				10	【授業単元】 社会資源と実践 民間企業、  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる			
3	【授業単元】 社会資源と実践 訪問作業療法 通所リハビリテーション  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる				11	【授業単元】 地域作業療法  【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
4	【授業単元】 社会資源と実践 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、その他入所施設  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる				12	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について:コース立方体、MoCA  【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価の手順について確認できる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
5	【授業単元】 社会資源と実践 介護予防事業  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる				13	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう①  【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる			
6	【授業単元】 社会資源と実践 精神障害領域  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる				14	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう②  【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる			
7	【授業単元】 社会資源と実践 特別支援、児童発達支援、放課後等デイサービス  【到達目標】 各社会資源について理解できる 各社会資源における作業療法実践について理解し、対象者像と作業療法士像についてイメージを持つことができる				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
得た知識を今後どう活かすか、主体的に考えながら授業に臨みましょう。 地域で暮らす対象者や地域で働く作業療法士についてのイメージを持ち、自身の作業療法士像を上げていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	石井茉弥・田中直幸				
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	45	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する事が出来るようになる。											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
臨床実習Ⅰ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
<p>実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前後におけるOSCE（客観的臨床能力試験）実施</li> <li>・実習要項・実習前後教育についての説明（実習に臨む姿勢や心構えの理解を含む）</li> <li>・記録の取り方・観察・評価計画についての理解</li> <li>・評価のまとめから、プログラム立案に至る過程の理解</li> <li>・集団療法</li> <li>・リスク管理</li> <li>・精神科医療に関わる制度について</li> <li>・症例検討・症例発表</li> <li>・リハビリ職（PT・ST）他職の理解</li> </ul> <p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域)</li> </ul> <p>社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など）</p>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	石井 茉弥			
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	45 時間	
【授業を通じての到達目標】							科目全体で1単位45時間			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習の意義と目的について理解し、説明できる。</li> <li>・臨床実習に必要な要素について、自分の言葉で述べるができる。</li> <li>・専門職・職業人として仕事をしていくために、必要とされるスキルや知識を学び、自分の考えを他者と共有することができる。</li> <li>・グループワークに積極的に参加し、基本的なコミュニケーション技法(聞く・話す・書く)を実践することができる。</li> <li>・臨床実習に向けて、自己の課題を認識し、改善のための行動を計画することができる。</li> </ul>										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
<p>教員は、総合病院にて身体障害者領域のリハビリテーション業務に従事。厚生労働省指定の作業療法士専任教員養成講習会を受講・修了している。臨床実習(現場教育)の意義や目的・心構え、また必要とされる態度や知識について、アクティブラーニングやグループワークを用いて学習する。</p>										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
使用する指定教科書はありません。					その日学んだこと、実施した演習に対して振り返りを行ってください。ワークシート、またはレポートの課題を授業内で指定します。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション アイスブレイク(コンセンサスゲーム)</p> <p>【到達目標】 本授業の目的、内容を理解することができる。 本授業の到達目標を理解することができる。 アイスブレイクゲームで、他者と積極的にコミュニケーション(聞く・話す・共感)が取れる。</p>				9	<p>【授業単元】 職業人とは？ 職業倫理、臨床倫理について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 職業人・専門職について考え、自分の意見を述べるができる。 職業人に必要な資質・能力について理解することができる。 医療者の臨床倫理について考え、自身の意見を述べるができる。</p>				
2	<p>【授業単元】 臨床実習について学ぶ。 臨床実習で求められる要素(知識・技術・態度)について学ぶ。 臨床参加型実習(CGS)について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 在学中に実施される臨床実習の意義と目的を理解し、見学実習・評価実習・総合臨床実習のそれぞれの目的と到達目標を説明することができる。 臨床実習で学生が何を評価され、求められるかについて理解することができる。 実習現場でのシミュレーションを通して、実習中のイメージを持つことができる。</p>				10	<p>【授業単元】 記録・報告の書き方について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 実習中のディレノート・報告書の書き方を学び、理解することができる。 例題を用いて、ディレノートの作成を実践することができる。</p>				
3	<p>【授業単元】 ケース授与式(予定) ※ケースの納品によって授業が前後する可能性あり</p> <p>【到達目標】 自分たちが着るユニフォームの意味を知り、プロとしての自覚を持つことができる。 自身が医療福祉業界を選択したことに対する肯定感を持ち、作業療法士になることへの決意を述べるができる。</p>				11	<p>【授業単元】 客観的臨床能力試験(OSCE)について学ぶ①。</p> <p>【到達目標】 OSCEの歴史や目的、必要性について理解することができる。 例題を用いて、模擬OSCEに挑戦することができる。 グループで討論し、OSCEの準備を進めることができる。</p>				
4	<p>【授業単元】 医療者コミュニケーションについて学ぶ。 多職種連携について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 医療者コミュニケーションについて学び、実践することができる。 医療者に求められるコミュニケーションスキルについて、グループで議論することができる。 自身が実践しようとする対象者とのコミュニケーションについて、考えをまとめることができる。 多職種連携について学び、重要性や目的を述べるができる。</p>				12	<p>【授業単元】 客観的臨床能力試験(OSCE)について学ぶ②。</p> <p>【到達目標】 模擬OSCEをグループ単位で発表することができる。 他グループのOSCEに対して、フィードバックを行うことができる。</p>				
5	<p>【授業単元】 実習で必要とされるコミュニケーションについて学ぶ。 話し方(伝え方)について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 臨床実習において、指導者との適切なコミュニケーションを学ぶことができる。 医療現場におけるコミュニケーションを実践することができる。 話し方(表出)のトレーニングを行い、実践することができる。</p>				13	<p>【授業単元】 実習生紹介書・誓約書について書き方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 実習生紹介書の書き方を理解し、実践することができる。 個人情報保護誓約書の目的と書き方を理解し、実践することができる。</p>				
6	<p>【授業単元】 患者安全について学ぶ。 リスク管理について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 医療事故と医療過誤について学び、理解することができる。 患者安全の必要性について考え、グループで意見を交換することができる。 臨床現場のリスク管理について学び、理解することができる。 KYTを用いてグループ討論を行い、自分の意見を述べるができる。</p>				14	<p>【授業単元】 まとめ、質問コーナー</p> <p>【到達目標】 これまでの学習内容を振り返り、グループで実習についての意見交換ができる。 分からないこと、疑問が残る内容について、質問し議論することができる。 実習に向けて、自身の課題を認識し、改善するための行動を考えて述べるができる。</p>				
7	<p>【授業単元】 実習中のマナー(身だしなみ)、感染対策、個人情報保護について学ぶ。 ハラスメントについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 実習中の身だしなみルールについて把握し、その必要性を理解することができる。 感染対策(スタンダードプリコーション)について理解することができる。 個人情報保護、情報管理について理解し、重要性と対策について説明することができる。 ハラスメントについて学び、ある状況に対する対応を考えて述べるができる。</p>				15	<p>【授業単元】 期末試験</p> <p>【到達目標】 本授業で学んだ内容を振り返り、自身の考えをレポートにまとめることができる。 自分の考えを、自分の言葉で文章化することができる。</p>				
8	<p>【授業単元】 中テスト、質問コーナー</p> <p>【到達目標】 これまで学んだ内容を振り返り、自身の考えをレポートにまとめることができる。 自分の考えを、自分の言葉で文章化することができる。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、授業に対する取り組み(主体性・発言・態度など)をルーブリック評価で20%、各授業での課題を20%、中テスト20%、期末試験40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 授業やグループワークに対する取り組みはルーブリック評価で毎回ごとに評価し、20点分に換算する。各授業での課題は全体で20点分となるよう換算する。 中テストで20点満点、期末レポートで40点満点とし、レポートの評価はルーブリック評価にて行う。ルーブリックは初回の授業で配布し、採点基準を提示する。</p>					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
<p>グループワークを行いますので、主体的に参加するようにしてください。 作業療法士になるために必ず通る「実習」という学習の機会を、より良い学びとするためには、臨床実習の意義や目的を理解する必要があります。 授業の理解度によって内容が前後する・変更となる可能性があります。</p>										

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期集中	担当 教員	石井 茉弥		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】						科目全体で1単位45時間			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学実習について、目的や到達目標を理解することができる。</li> <li>・自身が行く実習地についての理解を深めることができる。</li> <li>・実習の個人目標を立て、実践することができる。</li> <li>・実習を振り返り、学びを言語化することができる。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、総合病院にて身体障害領域のリハビリテーション業務に従事。厚生労働省指定の作業療法士専任教員養成講習会を受講・修了している。 臨床実習(現場教育)の意義や目的・心構え、また必要とされる態度や知識について、アクティブラーニングやグループワークを用いて学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用する指定教科書はありません。					ワークシート、またはレポートの課題を授業内で指定します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習オリエンテーション  【到達目標】 臨床実習の目的・概要・提出物・ルールを確認し、理解することができる。				9	【授業単元】  【到達目標】			
2	【授業単元】 実習地について知る①  【到達目標】 自身が行く実習地について調べ、施設について理解することができる。				10	【授業単元】  【到達目標】			
3	【授業単元】 実習地について知る②  【到達目標】 自身が行く実習地について調べ、説明することができる。				11	【授業単元】  【到達目標】			
4	【授業単元】 実習の目標を立てる  【到達目標】 実習に向け個人目標を立てることができる。				12	【授業単元】  【到達目標】			
5	【授業単元】 実習を振り返る①  【到達目標】 見学実習を振り返り、学びを言語化することができる。				13	【授業単元】  【到達目標】			
6	【授業単元】 実習を振り返る②  【到達目標】 見学実習を振り返り、学びを言語化することができる。				14	【授業単元】  【到達目標】			
7	【授業単元】 実習を振り返る③  【到達目標】 見学実習を振り返り、学びを共有することができる。				15	【授業単元】  【到達目標】			
8	【授業単元】 実習を振り返る④  【到達目標】 見学実習を振り返り、自身の課題を確認し今後の学びに繋げることができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、授業に対する取り組み(主体性・発言・態度など)をルーブリック評価で20%、各授業での課題を20%、中テスト20%、期末試験40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 授業やグループワークに対する取り組みはルーブリック評価で各回ごとに評価し、20点分に換算する。各授業での課題は全体で20点分となるよう換算する。中テストで20点満点、期末レポートで40点満点とし、レポートの評価はルーブリック評価にて行う。ルーブリックは初回の授業で配布し、採点基準を提示する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
はじめての実習で、多くの学びを得られるよう主体的に参加してください。									

## 授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中村 勇貴		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
解剖学・生理学の基礎の復習を行いながら、国家試験合格に向け1年生から基礎を固めていく。 問題を解き、グループワークでアウトプットを行い理解を深めていく。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 目標設定  【到達目標】 作業療法総合学習 I の目的について理解する				9	【授業単元】 生理学② 循環について  【到達目標】 循環について理解する 問題を解き理解を深める			
2	【授業単元】 解剖学① 骨について  【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				10	【授業単元】 生理学② 呼吸について  【到達目標】 呼吸について理解する 問題を解き理解を深める			
3	【授業単元】 解剖学② 骨について  【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				11	【授業単元】 生理学③ 消化について  【到達目標】 消化について理解する 問題を解き理解を深める			
4	【授業単元】 解剖学③ 骨について・筋肉について  【到達目標】 骨・筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				12	【授業単元】 授業の総まとめ①  【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
5	【授業単元】 解剖学④ 筋肉について  【到達目標】 身体の構造や筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				13	【授業単元】 授業の総まとめ②  【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
6	【授業単元】 解剖学⑤ 筋肉について  【到達目標】 筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				14	【授業単元】 定期テスト対策  【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める			
7	【授業単元】 まとめ 中テスト対策  【到達目標】 骨・筋肉についてまとめを行い理解を深める				15	【授業単元】 定期テスト 授業の振り返り  【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト 生理学①  【到達目標】 中テスト 血液について問題を解き理解を深める				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
解剖学・生理学の復習科目です。グループワークで協力し、問題を解いていきましょう。日々の予習・復習もやっていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	中村 勇貴		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
運動学・精神分野の基礎の復習を行い、国家試験合格に向け1年生から基礎を固めていく。 問題を解き、グループワークでアウトプットを行い知識の定着を図る。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲の運動学・精神分野を中心に授業を実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料					授業の内で提示した課題				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期の復習①  【到達目標】 作業療法総合学習 I の目的について理解する 前期の復習を行い、知識の定着を図る				9	【授業単元】 運動学⑤ 運動学まとめ  【到達目標】 運動学のまとめを行い理解し知識の定着を図る グループで問題を解き、理解を深める			
2	【授業単元】 前期の復習②  【到達目標】 前期の復習を行い、知識の定着を図る				10	【授業単元】 運動学⑥ 運動学まとめ  【到達目標】 運動学のまとめを行い理解し知識の定着を図る グループで問題を解き、理解を深める			
3	【授業単元】 前期の復習③  【到達目標】 前期の復習を行い、知識の定着を図る				11	【授業単元】 授業の総まとめ①  【到達目標】 今までの授業を振り返り知識の定着を深める			
4	【授業単元】 運動学① 上・下肢の筋の作用  【到達目標】 上・下肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る				12	【授業単元】 授業の総まとめ②  【到達目標】 今までの授業を振り返り知識の定着を深める			
5	【授業単元】 運動学② 上・下肢の筋の作用  【到達目標】 下肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る				13	【授業単元】 国家試験問題チャレンジ①  【到達目標】 国家試験を解き理解を深める			
6	【授業単元】 運動学③ 運動学のまとめ  【到達目標】 運動学のまとめを行い理解し知識の定着を図る				14	【授業単元】 国家試験問題チャレンジ②  【到達目標】 国家試験を解き理解を深める			
7	【授業単元】 運動学④ 運動学まとめ  【到達目標】 運動学のまとめを行い理解し知識の定着を図る グループで問題を解き、理解を深める				15	【授業単元】 定期テスト 授業の振り返り  【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト 後期前半まとめ  【到達目標】 後期前半のまとめを行い知識の定着を図る グループで問題を解き、理解を深める				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
解剖学・生理学・運動学の復習科目です。グループワークで協力し、問題を解いていきましょう。日々の予習・復習もやっていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	中村 勇貴		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
内臓系～感覚器における範囲の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法・作業療法学 基礎分野 解剖学					授業の内で提示した課題				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 1. 内臓系①  【到達目標】 内臓系(口腔、咽頭、食道、胃)について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 2. 脈管系③  【到達目標】 脈管系(心臓・動脈・静脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 1. 内臓系②  【到達目標】 内臓系(小腸、大腸、肝臓、脾臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 2. 脈管系④  【到達目標】 脈管系(動脈・静脈・リンパ)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 1. 内臓系③  【到達目標】 内臓系(気道、鼻腔、喉頭、気管)について、その概要・要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 2. 脈管系⑤(まとめ)  【到達目標】 今まで実施してきた脈管系の総まとめの理解・説明ができる。			
4	【授業単元】 1. 内臓系④  【到達目標】 内臓系(肺・腎臓・膀胱)について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 3. 感覚系①  【到達目標】 感覚系について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 1. 内臓系⑤  【到達目標】 内臓系(精巣・卵巣・尿道・性器)について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 3. 感覚系②  【到達目標】 感覚系について、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 1. 内臓系⑥(まとめ)  【到達目標】 今まで実施してきた内臓系の総まとめの理解・説明ができる。				14	【授業単元】 総まとめ  【到達目標】 今まで実施してきた感覚系の総まとめの概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 2. 脈管系①  【到達目標】 脈管系(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 定期テスト  【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト(内臓系) 2. 脈管系②  【到達目標】 脈管系(心臓・動脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	中村 勇貴		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
呼吸、循環、消化、吸収と代謝、内分泌の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の要点8割以上理解を目的に授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
標準理学療法・作業療法学 基礎分野 生理学 前期授業資料									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用①  <b>【到達目標】</b> 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				9	<b>【授業単元】</b> 11. 消化・吸収と代謝① (国家試験問題)  <b>【到達目標】</b> 消化・吸収と代謝(機能)について、その概要・要点を理解・説明できる。 (国家試験問題を解き、知識の定着を図る)			
2	<b>【授業単元】</b> 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用②  <b>【到達目標】</b> 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				10	<b>【授業単元】</b> 国家試験問題①  <b>【到達目標】</b> 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
3	<b>【授業単元】</b> 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用③  <b>【到達目標】</b> 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。				11	<b>【授業単元】</b> 国家試験問題②  <b>【到達目標】</b> 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
4	<b>【授業単元】</b> 8. 呼吸①  <b>【到達目標】</b> 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	<b>【授業単元】</b> 国家試験問題③  <b>【到達目標】</b> 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
5	<b>【授業単元】</b> 8. 呼吸②  <b>【到達目標】</b> 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	<b>【授業単元】</b> 国家試験問題④  <b>【到達目標】</b> 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
6	<b>【授業単元】</b> 9. 循環①  <b>【到達目標】</b> 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	<b>【授業単元】</b> 国家試験問題⑤  <b>【到達目標】</b> 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。			
7	<b>【授業単元】</b> 9. 循環②  <b>【到達目標】</b> 循環について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	<b>【授業単元】</b> 定期テストと授業の振り返り  <b>【到達目標】</b> 小テスト、中テスト、定期テストの合計8割以上			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト(呼吸・循環) 10. 腎臓  <b>【到達目標】</b> 腎臓について、その概要・要点を理解・説明できる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
国家試験に直結する科目です。受講にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやってみましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	小児科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	今  え り		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
重症心身障害児や医療的ケア児が日々増加し、作業療法士もこれらの方々を担当する機会が増える中で、それらの現状を理解し、小児の疾患と障害の特性を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として、15年以上発達障害領域(児童デイサービスや特別支援学校・療育施設・園の巡回)で働きつつ、発達障害と小児疾患について勉強会を担当している教員が、小児の疾患と治療を中心に講義を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
小児科学・資料					予習(教科書を読む)・復習(資料を読み返す)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 小児科学概論、 診断と治療の概論、新生児・未熟児と疾患				9	【授業単元】			
	【到達目標】 小児の身体、脳などの各臓器の発育について理解する。 診断と検査の過程を知り、治療や訓練に関わる情報をつかむ方法を理解する。 新生児、未熟児の代表的疾患を知る					【到達目標】			
2	【授業単元】 先天異常と遺伝病、神経・筋疾患 発達障害とその周辺疾患・二次障害				10	【授業単元】			
	【到達目標】 先天異常の発生要因を理解する。遺伝病と遺伝の法則を理解する 臨床の場で多い疾患の特徴を理解する 主な発達障害の特徴を理解する					【到達目標】			
3	【授業単元】 骨・関節疾患、循環器疾患 呼吸器疾患				11	【授業単元】			
	【到達目標】 小児の骨、関節疾患が示す症状の特徴を掴む 心機能障害の臨床症状について知る 呼吸機能とその臨床症状について知る					【到達目標】			
4	【授業単元】 感染症、消化器疾患 内分泌・代謝疾患				12	【授業単元】			
	【到達目標】 感染症のそれぞれの特徴を知る 消化器系の症状の特徴について理解する 各種ホルモンの働きについて、生理学の知識を整理しながら各疾患の病態を理解する					【到達目標】			
5	【授業単元】 血液疾患、免疫・アレルギー疾患 腎・泌尿器系・生殖器疾患				13	【授業単元】			
	【到達目標】 各血球、血漿成分とその働き、および病的状態について知る 免疫機構と自己免疫疾患との関係を知る 腎機能検査の概略を知る					【到達目標】			
6	【授業単元】 腫瘍性疾患、心身医学的疾患 重症心身障害児				14	【授業単元】			
	【到達目標】 悪性腫瘍の治療や予後について理解を深める 身体疾患と心身疾患を知る 重症心身障害児の概念と背景疾患の主なものを知る					【到達目標】			
7	【授業単元】 眼科的疾患、耳鼻科的疾患 児童虐待				15	【授業単元】			
	【到達目標】 視機能の発達と異常を知る 聴覚障害および小児耳鼻科的の代表的な急性疾患を知る 児童虐待の分類と対応を知る					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、まとめ				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストやレポートなどの提出物を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 小児科学で学んだことを理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

## 授 業 概 要

科目名	整形外科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋 航祐		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
疾病や外傷に起因する運動器障害の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。整形外科疾患の理解と同時に、その土台となる基礎知識の振り返りを徹底しながら特に解剖運動学との科目間のつながりを深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版					授業で提示する基礎課題の反復学習を推奨します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 整形外科学に関わる解剖知識と疾患① 骨関節・上肢筋について				9	【授業単元】 脊髓損傷・脊椎疾患について			
	【到達目標】 この科目で何を学ぶのかを理解できる。整形外科学とその土台となる解剖運動学との関連性を理解できる					【到達目標】 疾患と損傷レベルによる症状について理解することができる			
2	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖知識と疾患② 上肢筋・下肢筋について				10	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖知識と疾患④ 循環器系、内分泌系について			
	【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。					【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。			
3	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について①				11	【授業単元】 循環器障害と壊死性疾患について			
	【到達目標】 骨折の分類と上肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
4	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について②				12	【授業単元】 代謝・内分泌疾患・退行性疾患について			
	【到達目標】 上肢骨折・下肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
5	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖知識と疾患③ 末梢神経と筋作用について				13	【授業単元】 炎症性疾患、熱傷、切断および離断について			
	【到達目標】 解剖学・運動学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
6	【授業単元】 外傷性疾患 末梢神経・腱・靭帯について				14	【授業単元】 整形外科疾患の総復習			
	【到達目標】 末梢神経・腱・靭帯の障害について理解することができる					【到達目標】 整形外科疾患の理解し、整理することができる			
7	【授業単元】 神経・筋疾患について				15	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 神経・筋疾患の病態や特徴について理解することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に参加する									

## 授 業 概 要

科目名	内科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 様々な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療を学び、理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修済み。双方向のやりとりを通して、様々な疾患の病因, 病態生理, 症候, 診断と治療の理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版					【授業時間外における学習】 内科学は生理学や解剖学などの基礎医学を基盤としているため、生理学や解剖学の復習をお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 内科学とは 内科的診断と治療の実際  【到達目標】 内科学について概要を理解することができる。 診察について理解することができる。				9	【授業単元】 血液・造血器疾患について  【到達目標】 血液や造血の異常によっておこる症状や病態生理を理解することができる。 主要な血液疾患の症状・病態について理解することができる。			
2	【授業単元】 症候学について  【到達目標】 症候とは何か理解することができる。 発熱・全身倦怠感・頭痛などの概念とメカニズムを理解できる。 主要な症候を生じる病態と関連疾患を理解することができる。				10	【授業単元】 代謝性疾患について  【到達目標】 代謝性疾患の病態と臨床的特徴について理解することができる。 ビタミン欠乏症の臨床的特徴について理解することができる。			
3	【授業単元】 循環器疾患について  【到達目標】 循環器疾患の概念や病理・症状・臨床所見・検査・治療について理解することができる。 循環器疾患をもつ患者様へのリハビリを実施する際の留意点を理解できる。				11	【授業単元】 内分泌疾患について  【到達目標】 ホルモンの作用機序を理解することができる。 ホルモンの種類・機能を理解することができる。 主要な内分泌疾患の概念・病態・治療法を理解することができる。			
4	【授業単元】 呼吸器疾患について  【到達目標】 呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解することができる。 主要な呼吸器疾患の概念・病態生理・症状・検査・治療・予後について理解することができる。 呼吸リハビリテーションについて理解することができる。				12	【授業単元】 腎・泌尿器疾患について  【到達目標】 腎臓の障害によっておこりうる症状を理解することができる。 主要な腎・泌尿器疾患の概念・病態・症状・検査法・治療法について理解することができる。 腎臓リハビリテーションについて理解することができる。			
5	【授業単元】 消化管疾患について  【到達目標】 消化管疾患の症候と病態生理について理解することができる。 消化管疾患の診断法を理解することができる。 主要な消化管疾患の概念・病態・症状と治療法について理解することができる。				13	【授業単元】 栄養について  【到達目標】 栄養の意味と栄養素の働きを理解することができる。 リハビリテーションに必要な栄養量について理解することができる。 代替栄養の概略について理解することができる。			
6	【授業単元】 肝胆膵疾患について  【到達目標】 肝臓・胆道・膵臓・腹膜疾患の症候と病態生理・検査方法・治療法について理解することができる。				14	【授業単元】 授業の振り返り  【到達目標】 第9回目から第13回目までの授業で不十分な点を理解し、不十分な内容について理解を深めることができる。			
7	【授業単元】 授業の振り返り  【到達目標】 第1回目から第6回目までの授業で不十分な点を理解し、不十分な内容について理解を深めることができる。				15	【授業単元】 定期試験・前期の振り返りおよび試験解答  【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。			
8	【授業単元】 中テスト・前半の授業の振り返りおよび試験解答  【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 内科学は臨床にでてからもとても重要です。難しい内容ではありますが、主体的に取り組むようにしてください。 また、分からないことは積極的に質問をお願いします。									

## 授 業 概 要

科目名	精神医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士として知っておくべき精神疾患の各種の病態を説明できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。教育関係の仕事も同時に取り組んでおり、今年で10年目となる。現在は障害者の就労支援を行う事業所も経営している。本科目では、私たち(対人援助職)が知っておくべき精神医学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院)					授業内容の復習。 各疾患を分かりやすく説明できるよう、授業の振り返りを行う。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、総論 <1>  【到達目標】 精神障害とは何か。「異常」の観点から簡潔に説明できる。				9	【授業単元】 特別授業 <2>  【到達目標】 精神疾患についてのイメージを広げることが出来る。			
2	【授業単元】 総論 <2>  【到達目標】 精神障害とは何か。「歴史」「統計」の観点から説明できる。				10	【授業単元】 各論<6>:神経症群 前編  【到達目標】 不安障害群、および強迫症の基礎知識について簡潔に説明できる。 (社交不安、パニック障害など)			
3	【授業単元】 各論<1>:統合失調症 前編  【到達目標】 統合失調症の基礎知識について簡潔に説明できる。 (成因、疫学、経過、予後 など)				11	【授業単元】 各論<7>:神経症群 後編  【到達目標】 解離症、身体症状症、PTSDの基礎知識について簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 各論<2>:統合失調症 後編  【到達目標】 統合失調症の基礎知識について簡潔に説明できる。 (症状、病型、行動特性 など)				12	【授業単元】 各論<8>:摂食障害  【到達目標】 摂食障害の基礎知識について簡潔に説明できる。			
5	【授業単元】 各論<3>:気分障害 前編  【到達目標】 うつ病の基礎知識について簡潔に説明できる。 (成因、病前性格・気質、疫学、症状など)				13	【授業単元】 各論<9>:物質関連障害  【到達目標】 物質関連障害(依存症)の基礎知識について簡潔に説明できる。			
6	【授業単元】 各論<4>:気分障害 後編  【到達目標】 躁うつ病の基礎知識について簡潔に説明できる。 (成因、病前性格・気質、疫学、症状など)				14	【授業単元】 各論<10>:その他のさまざまな精神疾患  【到達目標】 適応障害 など について簡潔に説明できる。			
7	【授業単元】 各論<5>:パーソナリティ障害  【到達目標】 パーソナリティ障害の基礎知識、および各タイプの特徴について簡潔に説明できる。				15	【授業単元】 定期テスト 科目の復習  【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 特別授業<1>  【到達目標】 精神疾患についてのイメージを広げることが出来る。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 ①定期テスト(第15回)が60点満点。 ②各回(第8回、第9回、第15回を除く)の小テストが3点×12回 = 計36点 ③第8回と第9回は、出席点 各回2点 × 2回 = 計4点 計 100点満点				
【履修に当たっての心構え・留意点】					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テストは資料持ち込み可。				
本科目によって精神障害の基礎知識を身につけるが、臨床現場では「知識を通して人を見る」のではなく、「その人の状態を理解するヒントの一つ」として知識を活用すること。									

## 授 業 概 要

科目名	一般臨床医学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
各疾患の病因、病態生理、症候、診断、栄養管理と薬理、画像診断、障害予防について学ぶ									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(18年目)が、臨床現場で必要となる臨床医学を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
授業資料 指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 循環器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			9	【授業単元】 神経・運動器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】 呼吸器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			10	【授業単元】 アレルギー疾患・膠原病・免疫病	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 消化器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			11	【授業単元】 代謝・栄養障害	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 肝・胆・膵疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			12	【授業単元】 感覚器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 感染症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			13	【授業単元】 中毒・染色体・遺伝子異常症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 血液・造血器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			14	【授業単元】 皮膚および胸壁の疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 内分泌疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			15	【授業単元】 総復習、テスト	【到達目標】 これまでの講義の中で行った各疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防の確認		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 腎・尿路・生殖器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(おおよそ半分の授業週で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
国試や臨床に出た際に必要になる知識ですので積極的な参加を期待します。分からないことがあれば授業時やteams上でいつでも質問してください。									

## 授 業 概 要

科目名	病理学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
病理学は病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問であり、疾患や障害を理解する上では重要な知識である。ここでは組織学的形態学を中心に概観し、病気がどのように成り立っていくのかを理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、病理学の知識を伝え、知識の定着を図るとともに、各疾患を呈する対象者に対し、今後作業療法士としてどのようなスキルが求められるのかについて自身の考えを持つことができるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学第 5版 医学書院 参考図書 適宜授業内で紹介します。					予習復習をしっかりと行い、知識の定着を図りましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 病理学の概要について  【到達目標】 病理学の歴史について知ることができる 病理学総論について知ることができる 病院論について理解できる 病理学を学ぶ意義意欲を持つことができる				9	【授業単元】 神経系について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
2	【授業単元】 退行性病変、進行性病変について 代謝障害について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				10	【授業単元】 運動器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
3	【授業単元】 循環障害について 免疫について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				11	【授業単元】 泌尿・生殖器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
4	【授業単元】 炎症、感染症について 腫瘍について 老化について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				12	【授業単元】 内分泌臓器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
5	【授業単元】 先天異常、奇形について 循環器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				13	【授業単元】 造血器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
6	【授業単元】 呼吸器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				14	【授業単元】 皮膚、感覚器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
7	【授業単元】 消化器について  【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説  【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
得た知識から対象者の臨床像をイメージし、各疾患に対し作業療法士としてどんな対応が必要か自身の考えを持てるようにしましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	脳神経内科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋 航祐		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 脳神経疾患の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。脳神経内科疾患の理解と同時に、その土台となる基礎知識の振り返りを徹底しながら特に解剖運動学との科目間のつながりを深める。また評価学など臨床との関連についても深めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】 脳神経内科学					【授業時間外における学習】 授業で提示する基礎課題の反復学習を推奨します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患① 脳の解剖学について  <b>【到達目標】</b> この科目で何を学ぶのかを理解できる。脳神経内科学とその土台となる解剖運動学との関連性を理解できる				9	<b>【授業単元】</b> 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患④ 髄体外路について  <b>【到達目標】</b> 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。			
2	<b>【授業単元】</b> 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患② 髄体路について  <b>【到達目標】</b> 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。				10	<b>【授業単元】</b> 髄体外路系疾患について  <b>【到達目標】</b> 髄体外路系疾患について理解することができる。			
3	<b>【授業単元】</b> 脳血管障害について①  <b>【到達目標】</b> 脳血管障害について理解することができる				11	<b>【授業単元】</b> 神経学的診断と検査について  <b>【到達目標】</b> 脳画像を中心に脳の構造と病態と理解することができる			
4	<b>【授業単元】</b> 脳血管障害について②  <b>【到達目標】</b> 脳血管障害について理解することができる				12	<b>【授業単元】</b> 認知症について  <b>【到達目標】</b> 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
5	<b>【授業単元】</b> 脳神経内科学に関わる解剖知識と疾患③ 高次脳機能について  <b>【到達目標】</b> 解剖学・運動学について復習し、脳神経内科疾患理解に向けて知識を整理することができる。				13	<b>【授業単元】</b> 変性疾患、てんかん、その他疾患について  <b>【到達目標】</b> 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
6	<b>【授業単元】</b> 高次脳機能障害について  <b>【到達目標】</b> 脳血管疾患によって起きる高次脳機能障害について理解することができる。				14	<b>【授業単元】</b> 脳神経系疾患の総復習  <b>【到達目標】</b> 脳神経系疾患の理解し、整理することができる			
7	<b>【授業単元】</b> その他脳疾患について  <b>【到達目標】</b> 脳疾患について理解することができる				15	<b>【授業単元】</b> 復習 定期テスト  <b>【到達目標】</b> これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8	<b>【授業単元】</b> 中テストと中枢神経系の振り返り  <b>【到達目標】</b> これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 主体的に参加する									

## 授 業 概 要

科目名	作業療法管理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	松本 秀一・荒田 英成		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
作業療法領域における社会保障制度、職業倫理、業務管理、多職種・地域連携、医療の質とリスクマネジメント、養成教育と卒後教育などを学び、組織の管理・運営について学習する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
実務経験:急性期・回復期を経験し、現在は回復期リハビリテーション病院で勤務。 授業内容:教科書をベースとし、実際の臨床をリンクさせ、作業療法士業務のマネジメントについて。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
使用教科書:作業療法管理学 入門 参考教科書:同上					次回内容はシラバスを確認し教科書に目を通してください。小テスト・定期テストは教科書内から出題します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 作業療法とマネジメント  <b>【到達目標】</b> マネジメントの特性、PDCAサイクルの考え方、作業療法士の目標設定について理解する				9	<b>【授業単元】</b> “作業療法の役割と職域 中テスト”  <b>【到達目標】</b> 作業療法の定義、職域を学び、職能団体の必要性を理解する。			
2	<b>【授業単元】</b> 組織の成り立ちとマネジメント  <b>【到達目標】</b> 作業療法士が属する組織について理解し、その中での役割について理解する。				10	<b>【授業単元】</b> 作業療法士の職業倫理  <b>【到達目標】</b> 作業療法における職業・研究倫理について学び、対象者への権利・尊厳を理解する。			
3	<b>【授業単元】</b> 情報のマネジメント  <b>【到達目標】</b> 情報の役割や種類を理解し、適切な使用が行える。				11	<b>【授業単元】</b> 作業療法士を取り巻く諸制度  <b>【到達目標】</b> 社会保障制度について学び、その特性や現状、課題を知る。また地域包括ケアシステムについて理解する。			
4	<b>【授業単元】</b> 作業と医療サービス  <b>【到達目標】</b> サービスの特性を理解し、作業療法におけるサービス及び質の高い医療について理解する。				12	<b>【授業単元】</b> 作業療法臨床実習の理解と管理体制  <b>【到達目標】</b> 作業療法教育課程における臨床実習の位置づけを理解する。			
5	<b>【授業単元】</b> 医療安全のマネジメント  <b>【到達目標】</b> 医療機関におけるリスクマネジメント(医療事故・感染対策)について理解する。				13	<b>【授業単元】</b> 作業療法士のキャリア開発  <b>【到達目標】</b> 作業療法士が取得できる資格、学術研究について学ぶ。また生涯教育を行う上での自身のワークライフバランスを学習する。			
6	<b>【授業単元】</b> 作業療法業務のマネジメント①人・物・経済性のマネジメント  <b>【到達目標】</b> 人材育成・物品管理を学習し、リハビリ部門における経済特性を理解する。				14	<b>【授業単元】</b> 作業療法実践におけるマネジメント  <b>【到達目標】</b> 入院～退院、在宅生活までに作業療法士が携わる内容について学習し、その中でどのようなマネジメントを行なっているか理解する。			
7	<b>【授業単元】</b> 作業療法業務のマネジメント②情報・時間・ストレスのマネジメント  <b>【到達目標】</b> 情報の特性を学び、時間・ストレスへのマネジメントについて理解する。				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験  <b>【到達目標】</b> 作業療法領域におけるマネジメントについて知識の整理を行う。			
8	<b>【授業単元】</b> 作業療法業務のマネジメント③実践からの学び  <b>【到達目標】</b> 作業療法における業務管理・人材育成・地域・社会での役割について理解する。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 小テスト(13回×5点=65点) 中テスト(1回×15点) 小テスト+中テスト÷2=40点:40% 定期テスト(1回×60点=60点:60%) 両者の合計点により科目の評定(100%)とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
臨床の内容をベースとした授業となっています。 臨床をイメージしながら取り組んで頂ければと考えています。									

## 授 業 概 要

科目名	身体運動系評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体機能に関する基本的な評価法の習得を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。車いすシーティング、脳画像の外部セミナーを複数実施。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法実技を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 徒手筋力検査法 第10版 協同医学出版社					授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。 予め申し出て頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション 臨床における評価の位置づけと重要性について				9	【授業単元】 感覚検査について(動画撮影)			
	【到達目標】 臨床における評価の意義を理解し、今後の学習の心構えを作ることができる					【到達目標】 感覚検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。			
2	【授業単元】 触診について				10	【授業単元】 反射検査について			
	【到達目標】 触診技法からひとの体に触れることの基本を習得する。					【到達目標】 反射検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
3	【授業単元】 筋緊張の評価				11	【授業単元】 反射検査について(動画撮影)			
	【到達目標】 触診技法を用い、骨格筋の筋緊張の違いを感じ取ることができる。					【到達目標】 反射検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。			
4	【授業単元】 関節可動域測定について				12	【授業単元】 実技発表会			
	【到達目標】 関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。					【到達目標】 これまで学んだ実技を全体の前で発表し、一定の緊張感の中でも実技を実施することができる。			
5	【授業単元】 関節可動域測定について(動画撮影)				13	【授業単元】 バランス検査			
	【到達目標】 関節可動域測定を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。					【到達目標】 バランス検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
6	【授業単元】 徒手筋力検査法について				14	【授業単元】 上肢機能検査			
	【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。					【到達目標】 上肢機能検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
7	【授業単元】 徒手筋力検査法について(動画撮影)				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 徒手筋力検査法を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 感覚検査について				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 感覚検査の目的、注意点、実施方法を理解できる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・小テストは課題提出またはチームスでの試験にて実施する ・中テストは第12回の実技発表とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。									

## 授 業 概 要

科目名	身体運動系評価学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体機能に関する基本的な評価法の知識・技術を持って、具体的な疾患・障害に対する評価法の選択や適応、実施を計画することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。車いすシーティング、脳画像の外部セミナーを複数実施。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法実技を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 徒手筋力検査法 第10版 協同医学出版社					授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。 予め申し出て頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (9/2)	【授業単元】 授業全体のオリエンテーション 脳卒中における評価法 ①疾患概要と作業療法評価の全体像  【到達目標】 脳卒中の概要を把握し、作業療法評価の全体像を理解できる。				9	【授業単元】 整形外科疾患における評価法 ①疾患概要と作業療法評価の全体像  【到達目標】			
2 (9/9)	【授業単元】 脳卒中における評価法 ②ブルンストロームステージテストと上田法  【到達目標】 ブルンストロームステージテストと上田法の目的、注意点、実施方法を理解できる。				10	【授業単元】 整形外科疾患における評価法 ②症例を想定した評価法の実施 -ROM、MMT、形態測定- (動画撮影)  【到達目標】			
3 (9/16)	【授業単元】 脳卒中における評価法 ②ブルンストロームステージテストと上田法(動画撮影)  【到達目標】 ブルンストロームステージテストと上田法を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。				11	【授業単元】 姿勢・動作観察と分析 -臥位と寝返り-  【到達目標】 "ありのままを捉える"という観察視点を用いて、正常動作と目の前の現象の差異に気づくことができる。			
4 (9/23)	【授業単元】 脳卒中における評価法 ③協調性検査(動画撮影)  【到達目標】 協調性検査を教科書に基づいて実施でき、かつ相手に分かりやすい説明、言葉遣い等の基本的接遇にも配慮できる。				12	【授業単元】 姿勢・動作観察と分析 -座位と起立-  【到達目標】 "ありのままを捉える"という観察視点を用いて、正常動作と目の前の現象の差異に気づくことができる。			
5 (9/30)	【授業単元】 脳卒中における評価法 ④症例検討 ～必要な評価の検討～  【到達目標】				13	【授業単元】 MTDLPについて  【到達目標】 MTDLPの概念を理解することができる。			
6 (10/7)	【授業単元】 脳卒中における評価法 ④症例検討 ～必要な評価の検討～ 発表  【到達目標】				14	【授業単元】 症例検討  【到達目標】 症例検討を通して、より具体的な評価法の選定と実施計画、結果の解釈の基本ができるようになる。			
7 (10/18)	【授業単元】 3年生 実習生成果発表会 10月18日(金)13:10-16:20 場所は未定  【到達目標】 3年生の実習経験を聴講し、臨床実習に対して具体的なイメージを持ち、自身がやるべきことを明確にする。				15	【授業単元】 振り返り 定期試験  【到達目標】 定期試験をクリアする。			
8 (10/18)	【授業単元】 3年生 実習生成果発表会 10月18日(金)13:10-16:20 場所は未定  【到達目標】 3年生の実習経験を聴講し、臨床実習に対して具体的なイメージを持ち、自身がやるべきことを明確にする。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。									

## 授 業 概 要

科目名	精神心理系評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	滝吉 翔		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神障害作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ精神障害領域、高齢期領域の基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。またこれら領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科病院、精神科訪問看護、精神科グループホームなどを経験し現在は大学教員をしながら大学院博士後期課程を履修中の教員が対象者の評価方法について興味関心を抱いていただけるような授業展開を想定しています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
1)精神科リハビリテーション評価法ハンドブック 2)精神障害と作業療法 3)原著論文 4)必要時に授業資料をteamsにアップロードします					授業に連続性を持たせるため、必ず復習をしてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 1)オリエンテーション				9	【授業単元】 産業精神保健/オープンダイアログについて			
	【到達目標】 1)授業の進め方について理解できる。					【到達目標】 オープンダイアログについて理解できる。			
2	【授業単元】 自他を知る				10	【授業単元】 精神科作業療法に必要なリーズニング			
	【到達目標】 他者を理解する前に自分自身のことを理解することが重要であることが理解できる。					【到達目標】 リーズニングの基礎知識が理解できる。			
3	【授業単元】 作業療法の理論				11	【授業単元】 精神科に関連した各種評価方法の概要			
	【到達目標】 作業療法評価を行う上で何故、理論が重要であるか理解できる。					【到達目標】 各種、精神科に関連した評価方法の概要を理解している。			
4	【授業単元】 他者を知るための評価技法(観察と面接)				12	【授業単元】 精神科に関連した各種評価方法の概要			
	【到達目標】 観察と面接のポイントについて理解できる。					【到達目標】 各種、精神科に関連した評価方法の概要を理解している。			
5	【授業単元】 他者を知るための評価技法(観察と面接)				13	【授業単元】 処方箋の見方/処方箋から得られる情報について			
	【到達目標】 観察と面接のポイントについて理解できる。					【達成目標】 処方箋から必要な情報収集を抽出できる。			
6	【授業単元】 作業分析(コラージュ文字)と観察				14	【授業単元】 MTDLP/ICFIについて			
	【到達目標】 作業分析の手順が理解できる。					【到達目標】 MTDLPについて知ることができる。			
7	【授業単元】 当事者さんと交流しよう				15	【授業単元】 定期テスト(全範囲)とこれまでの復習			
	【到達目標】 当事者さんの障害特性が理解できる。					【到達目標】 精神科作業療法の理論を土台に当事者さんに合った評価方法が選択できる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 精神科作業療法評価の土台には理論があることが理解できている。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
分からないことがあった時には分からないままにせず、授業内で消化するようにしていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	精神心理系評価学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	滝吉 翔		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神心理系評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神科病院、精神科訪問看護、精神科グループホームなどを経験し現在は大学教員をしながら大学院博士後期課程を履修中の教員が対象者の評価方法について興味関心を抱いていただけるような授業展開を想定しています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
1)精神科リハビリテーション評価法ハンドブック 2)精神障害と作業療法 3)原著論文 4)必要時に授業資料をteamsにアップロードします					授業に連続性を持たせるため、必ず復習をしてください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 1)オリエンテーション 2)主な精神疾患の振り返り				9	【授業単元】 当事者さんと交流しよう			
	【到達目標】 1)授業の進め方について理解できる。2)評価の対象となる精神疾患の特徴が説明できる。					【到達目標】 当事者さんとの交流を通して観察・記録ができる			
2	【授業単元】 自他を知る				10	【授業単元】 動画を観ながらリーズニング			
	【到達目標】 自分自身の特徴が説明できる。					【到達目標】 リーズニングを実践することができる。			
3	【授業単元】 作業療法の理論				11	【授業単元】 精神科に関連した各種評価方法の概要			
	【到達目標】 作業療法評価を行う上で何故、理論が重要であるか説明できる。					【到達目標】 各種、精神科に関連した簡易的な評価が行える			
4	【授業単元】 他者を知るための評価技法(観察と面接)				12	【授業単元】 精神科に関連した各種評価方法の概要			
	【到達目標】 観察と面接のポイントが説明できる。					【到達目標】 各種、精神科に関連した簡易的な評価が行える			
5	【授業単元】 他者を知るための評価技法(観察と面接)				13	【授業単元】 処方箋の見方/処方箋から得られる情報について			
	【到達目標】 観察と面接のポイントが説明できる。					【達成目標】 処方箋から必要な情報を抽出し、さらに不足している情報について優先順位をつけ、その情報収集方法と必要な理由を説明できる。			
6	【授業単元】 作業分析(コラージュ文字)と観察				14	【授業単元】 MTDLP/ICFについて			
	【到達目標】 作業活動を媒介した観察と記録ができる。					【到達目標】 ペーパーペイシエントであれば、必要な情報をMTDLPシートに落とし込むことができる。			
7	【授業単元】 産業精神保健/オープンダイアログについて				15	【授業単元】 定期テスト(全範囲)とこれまでの復習			
	【到達目標】 オープンダイアログの体験を通してその特性が説明できる。					【到達目標】 作業療法の理論を土台に当事者さんに合った評価方法が選択できる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 作業療法評価の土台には理論があることが理解できている。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
分からないことがあった時には分からないままにせず、授業内で消化するようにはいきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	義肢装具学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科 昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
義肢装具学について学び、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切に講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
メジカルビュー 作業療法学 ゴールドマスター 義肢装具学					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<small>【授業単元】</small> 義肢学 義肢編 義肢を学ぶ上で必要な医学的知識 教科書P62～77 <small>【到達目標】</small> 切断総論P62～77 その範囲の概要・要点を理解・説明できる。				2	<small>【授業単元】</small> 義肢学 切断のリハビリテーショ <small>【到達目標】</small> 断端管理方法について理解する。ソフトドレッシングが巻けるようになる。			
3	<small>【授業単元】</small> 義肢学 義足総論・義足各論(下腿義足・大腿義足) 教科書P39～51 P138～151 <small>【到達目標】</small> 教科書P39～51 P138～151について、その概要・要点を理解・説明できる。				4	<small>【授業単元】</small> 義手総論 教科書P15～38 <small>【到達目標】</small> 教科書P15～38について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	<small>【授業単元】</small> 義手各論:前腕切断と義手 教科書P78～94 <small>【到達目標】</small> 教科書P78～94について、その概要・要点を理解・説明できる。				6	<small>【授業単元】</small> 義手各論:上腕切断と義手 教科書P95～106 <small>【到達目標】</small> 教科書P95～106について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	<small>【授業単元】</small> 義肢装具学 国家試験問題の解答・解説 中テスト15点(配信・義肢の問題) <small>【到達目標】</small> 国家試験問題の解答と解説、その概要・要点を理解・説明できる。				8	<small>【授業単元】</small> 義肢学 義手のチェックアウト <small>【到達目標】</small> P121～137について、その概要・要点を理解・説明できる。			
9	<small>【授業単元】</small> 装具学 装具総論 <small>【到達目標】</small> 装具総論 P162～183 その概要・要点を理解・説明できる。 配付資料				10	<small>【授業単元】</small> 装具学 各論 上肢の装具 配付資料 <small>【到達目標】</small> 疾患の特徴とそれに合わせた装具の選択ができるようになる			
11	<small>【授業単元】</small> 装具学 各論 脳卒中片麻痺 P196～214 配付資料 <small>【到達目標】</small> 装具総論 脳卒中の病態を理解して、CRPS(複合性局所疼痛)について概要・要点を理解・説明できる。				12	<small>【授業単元】</small> 装具学 各論 頸髄損傷 教科書 P254～271 配付資料 <small>【到達目標】</small> 頸髄損傷の装具療法の目的と損傷高位によってどのようなADLでどのような装具を選択するについて理解する。			
13	<small>【授業単元】</small> 装具学 上肢補助具の作成 P185～195 <small>【到達目標】</small> 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。				14	<small>【授業単元】</small> 装具学 上肢補助具の作成 P185～195 <small>【到達目標】</small> 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。			
15	<small>【授業単元】</small> 義肢装具学⑮ 期末テスト 60点  義肢・装具の国家試験問題を中心に出題				<small>【成績評価の方法と基準】</small> 評価方法:筆記試験 小テスト・中テスト・定期テスト(小テスト・中テスト40点・期末試験 60点) 配点方法:100点の配点、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書は必ず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。									

## 授 業 概 要

科目名	運動器障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	森 優太		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
運動器に関する作業療法を学び、運動器の作業療法の必要性、可能性を理解できる。 各運動器疾患に対し、必要な評価、治療方法を選択し実践することができる。 講義、グループワーク、実技を通し、実習、卒後において運動器疾患への作業療法実践を実施することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
外来整形外科クリニックで小児から老年期の運動器疾患、スポーツ疾患を5年経験、および運動器作業療法に関する研究も行っている作業療法士が運動器領域での作業療法の必要性、可能性、未来について座学、グループワーク、実技を通して講義する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学 専門分野 身体作業療法学 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学					小テストの復習 実技やスライド内容を復習し他者に説明できるようになること				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 運動器障害作業療法の基礎・概論	【到達目標】 運動器領域における作業療法の概要を理解する。 運動器領域で起こりうる作業遂行上の問題や作業機能障害について説明できる。	9	【授業単元】 腱板損傷と作業療法	【到達目標】 腱板損傷の疾患概要を理解することができる。 腱板損傷に必要な評価、治療法を理解することができる。				
	【授業単元】 運動器障害作業療法の基礎・概論(グループワーク)			【授業単元】 腱板損傷後の作業療法の実際(実技中心)					
2	【授業単元】 運動器障害作業療法の基礎・概論(グループワーク)	【到達目標】 運動器領域における作業療法で用いる各理論の概要を理解する。 運動器作業療法に関するテーマに対しグループワークを通し理解を深め発表することができる。	10	【授業単元】 切断と作業療法	【到達目標】 切断に関する基礎知識を理解することができる。 切断患者に対する作業療法の必要性を理解することができる。 切断患者に必要な評価、治療法を選択することができる。				
	【授業単元】 頸椎疾患と作業療法			【授業単元】 熱傷と作業療法					
3	【授業単元】 頸椎疾患と作業療法	【到達目標】 頸椎疾患の概要を理解する。 頸椎疾患において必要な評価、治療法を理解し実践することができる。	11	【授業単元】 熱傷と作業療法	【到達目標】 熱傷患者に対する作業療法の必要性を理解することができる。 熱傷患者に対する作業療法の必要性を理解することができる。 熱傷患者に必要な評価、治療法を選択することができる。				
	【授業単元】 ハンドセラピーの基礎知識と概論			【授業単元】 運動器作業療法について考える(グループワーク)					
4	【授業単元】 ハンドセラピーの基礎知識と概論	【到達目標】 ハンドセラピーの基礎知識と概論を理解することができる。 ハンドセラピーと作業療法の繋がりを理解することができる。	12	【授業単元】 運動器作業療法について考える(グループワーク)	【到達目標】 講義で学んだ運動器領域の作業療法の総括として講義前後での運動器作業療法の理解度、イメージの変化を考え、言語化することができる。 グループワークを通し、運動器作業療法の未来について考えることができる。				
	【授業単元】 現場におけるハンドセラピーの実際(実技中心)			【授業単元】 運動器領域の作業療法について考える(グループワーク)					
5	【授業単元】 現場におけるハンドセラピーの実際(実技中心)	【到達目標】 ハンドセラピーに必要な評価、治療を実践を通して理解する。 ハンドセラピーに必要な評価、治療を選択し実践することができる。	13	【授業単元】 定期試験	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる。				
	【授業単元】 下肢疾患と作業療法			【授業単元】 グループワークで得られた内容をまとめ、発表することができる。 他グループの意見を取り入れ、運動器作業療法への理解をより深めることができる。					
6	【授業単元】 下肢疾患と作業療法	【到達目標】 変形性関節症および人工関節(THA)、下肢骨折の概要を理解することができる。 下肢疾患における作業療法の必要性を理解することができる。 下肢疾患に必要な評価、治療を選択し実践することができる。	14	【授業単元】 定期試験	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる。				
	【授業単元】 末梢神経損傷と作業機能			【授業単元】 定期試験					
7	【授業単元】 末梢神経損傷と作業機能	【到達目標】 末梢神経損傷の概要を理解することができる。 末梢神経損傷に必要な評価、治療を選択し実践することができる。	15	【授業単元】 定期試験	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中テスト、定期試験の合計が6割以上を達成できる。				
	【授業単元】 中テスト リウマチ・腰痛の作業療法			【成績評価の方法と基準】					
8	【授業単元】 中テスト リウマチ・腰痛の作業療法	【到達目標】 前半の振り返りとして中テストを行い、自己の学習理解度を理解することができる。 リウマチ・腰痛に対する作業療法の概要を理解することができる。		科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【履修に当たっての心構え・留意点】								
グループワークは積極的に参加し発言すること。 実技練習も行うため動きやすい服装を推奨する。 復習した内容を他者に説明できるように心がけること。									

## 授業概要

科目名	中枢神経障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	二瓶太志			
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間	
【授業を通じての到達目標】										
臨床実習に向け、中枢神経系身体障害領域の各疾患・障害別の作業療法の実践について習得する。標準予防策、リスク管理、コミュニケーション、上肢管理、下肢装具の装着介助、車椅子の駆動介助、移乗介助、歩行介助、呼吸練習・排痰手技、構音練習、食事動作・摂食嚥下練習、更衣動作・入浴動作練習、IADL練習の基礎的技法を身につける。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
作業療法士として19年の経験をもち、ボパースコンセプトアドバンスコース修了、環境適応全コース修了、関節ファシリテーションアドバンスコース修了をはじめ、促通反復療法や筋腹リリース、電気治療など、様々な治療手技に精通し、今も臨床で患者治療やセラピスト指導に従事している教員が担当。主に脳卒中片麻痺に関する治療学のための基礎的な知識・技術を習得を目指す。脳卒中サバイバーの方にも協力して頂き、実際の臨床推論や治療展開を学び体験する機会も設けます。実技、グループワークも活用して授業を進めていく。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
身体機能作業療法学、ゴールドマスター 身体障害作業療法学、作業療法評価学					小テスト、定期テストに向けた復習、実技の復習					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】9/5 1. 中枢神経障害作業療法の対象疾患と障害、治療理論について 2. 中枢神経系の解剖生理学 3. 標準予防策、PPE(個人防護具)について 【到達目標】 治療対象や作業療法実施のプロセス、治療理論について理解・説明できる 中枢神経系の解剖生理学に関して復習し、理解・説明できる 標準予防策と感染対策の基本技術、PPEに関して理解実践することができる				9	【授業単元】10/31 上肢機能障害の評価、治療について 【到達目標】 上肢機能障害の原因からその評価、治療までを理解することができる				
2	【授業単元】9/12 麻痺の評価と治療について 【到達目標】 麻痺の原因からその評価、治療までを理解することができる				10	【授業単元】11/7 脳血管障害に関する治療学概論 脳卒中ガイドライン2021について 【到達目標】 脳血管障害に関する治療学概論を理解することができる 脳卒中ガイドライン2021を理解することができる				
3	【授業単元】9/19 筋緊張異常の評価と治療について 【到達目標】 筋緊張異常の原因からその評価、治療までを理解することができる				11	【授業単元】11/14 脳卒中患者に対する時期別のアプローチ 脳卒中患者に対する上肢治療 Stage毎のアプローチ① 【到達目標】 脳卒中患者に対する時期別のアプローチを理解することが出来る 脳卒中患者におけるStage毎の上肢治療を理解することが出来る。				
4	【授業単元】9/26 協調運動障害の評価と治療について 【到達目標】 協調運動障害の原因からその評価、治療までを理解することができる				12	【授業単元】11/21 脳卒中患者に対する上肢治療 Stage毎のアプローチ② 治療姿勢の選択について 【到達目標】 脳卒中患者におけるStage毎の上肢治療を理解することが出来る。 治療姿勢の選択について、メリットとデメリットを理解することが出来る。				
5	【授業単元】10/3 感覚障害の評価と治療について 【到達目標】 感覚障害の原因からその評価、治療までを理解することができる				13	【授業単元】11/28 ニューロリハビリテーションについて 画像診断、ロボット、AI、VTなど先端機器について 【到達目標】 中枢神経障害に対するニューロリハビリテーションについて理解することが出来る。 ロボット、AI、VTなど先端機器の活用について理解することが出来る。				
6	【授業単元】10/10 嚥下障害の評価と治療について 嚥下吸引について 【到達目標】 嚥下障害の原因からその評価、治療までを理解することができる				14	【授業単元】12/5 脳卒中患者の治療デモ (もしくは脊髄損傷に対する治療について) 【到達目標】 脳血管障害患者に対する治療見学、実践からOTのクリニカルリーディングを深めることができる。 (脊髄損傷に対する治療に関して理解することが出来る)				
7	【授業単元】10/17 廃用症候群の評価の治療について サルコペニア、フレイル、リハ栄養について 【到達目標】 廃用症候群の原因からその評価、治療までを理解することができる				15	【授業単元】12/12 振り返りと定期試験および試験解答解説 【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。				
8	【授業単元】10/24 前半の振り返りと中間試験および試験解答解説 【到達目標】 “これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。”				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
実技を実施するので、動きやすい服装で参加。授業前後、実技前後の手指衛生、マスク・ゴーグル着用し、感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。感染状況等を鑑みて、可能であれば、実際の患者さんの協力を得て、治療デモを行います。										

## 授 業 概 要

科目名	精神障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	滝吉 翔	
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
臨床実習に向け、精神障害領域の各障害に対する作業療法を実践する能力を身につける。精神疾患により生活のしづらさに悩む人々への治療・援助計画を、その人の個人因子・背景因子を踏まえて立案し実践するための知識・技術を習得する。精神科医療、精神障害リハビリテーションと作業療法に関する基礎知識、疾患別の作業療法について説明できる。統合失調症の病期ごとの作業療法の特性を理解する。								
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
精神科病院、精神科訪問看護、精神科グループホームなどを経験し現在は大学教員をしながら大学院博士後期課程を履修しています。本講義では国家試験対策を念頭に入院医療から地域支援まで包括的な作業療法士の関わり、さらに臨床実習に向けた実践力を身に付けられるような授業を想定しています。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
1) 作業療法学 第3版 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 2) 作業療法学 改訂第2版 ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 3) その他					授業内で終わらなかった場合には、授業時間外のグループワークが必要になるかもしれません。参考図書に対し、範囲を明確にしているので、予習復習をしっかり行ってください。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1 2	【授業単元】 オリエンテーション 基礎概念①			17 18	【授業単元】 治療学⑥ 疾患別作業療法③			
	【到達目標】 本講義での学習内容、授業の流れが理解できる。精神科領域での基礎理論を理解している。				【到達目標】 気分(感情)障害、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害に対する疾患別作業療法を理解している。			
3 4	【授業単元】 基礎概念②			19 20	【授業単元】 治療学⑦ 疾患別作業療法④			
	【到達目標】 精神科臨床の基礎を理解している。				【到達目標】 てんかん、認知症に対する疾患別作業療法を理解している。			
5 6	【授業単元】 基礎概念③			21 22	【授業単元】 集団レクリエーション(治療の実践)、準備			
	【到達目標】 精神科作業療法の基礎を理解している。				【到達目標】 当事者さん参加型での集団レクリエーション実施の準備がグループで行える。			
7 8	【授業単元】 資料館見学(精神科の歴史、精神科作業療法の歴史を実際に見て、聞いて学ぶ)※予約が必要なので予定です。			23 24	【授業単元】 集団レクリエーション(治療の実践)、実施 *当事者さんも参加する予定です。			
	【到達目標】 座学ではイメージが付きにくい精神科医療の歴史、精神科作業療法の変遷を実際に見て、聞いて学び、理解を深めることができる。				【到達目標】 集団レクリエーションの実施、当事者さんへの配慮、観察が行える。			
9 10	【授業単元】 資料館見学後報告会 治療学①「治療構造」			25 26	【授業単元】 地域支援①			
	【到達目標】 資料館見学を通して得た知識を共有することができる。精神科の治療構造を理解している。				【到達目標】 多様なサービス、および連携を理解している。			
11 12	【授業単元】 治療学②「治療・援助の場」			27 28	【授業単元】 地域支援②			
	【到達目標】 精神科には多様な治療・援助の場があることを理解している。				【到達目標】 多様なサービス、および連携を理解している。			
13 14	【授業単元】 治療学③ 疾患別作業療法①			29 30	【授業単元】 地域支援③ 定期試験			
	【到達目標】 症状に即した対応、症状性を含む器質性精神障害、統合失調症に対する疾患別作業療法を理解している。				【到達目標】 多様なサービス、および連携を理解している。授業全体を通して得た知識をアウトプットできる。			
15 16	【授業単元】 中テスト 治療学④ 疾患別作業療法②			<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 これまでの学びを試験を通してアウトプットできる。摂食障害、パーソナリティ障害に対する疾患別作業療法を理解している。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
特に精神障害作業療法治療学はイメージが付きにくく習得が難しい分野でもあり、授業で疑問に感じたことなどは分からないままにせず、遠慮せず質問してください。								

## 授 業 概 要

科目名	発達過程障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害作業療法の評価と治療を学ぶ。</li> <li>・精神障害作業療法の臨床実習に向け、評価やプログラムについて演習を通して学ぶ。</li> <li>・プログラムを立案して、実行しながらその様子も観察、評価し、評価と治療は一体であることを学ぶ。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、発達障害クリニックの経験も含めたOT32年目。発達障害領域の知識や評価から治療の流れを臨床経験に基づいて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:イラストでわかる発達障害の作業療法. 医歯薬出版, 2016					授業単元に応じた予習・復習。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 概論①	【到達目標】 小児の作業療法課程、評価、治療・援助のための基礎知識、心身機能の発達過程を理解する	9	【授業単元】 知的障害・ダウン症・筋ジストロフィー①	【到達目標】 知的障害、ダウン症、筋ジストロフィーの作業療法を理解する				
	【授業単元】 概論②			【授業単元】 知的障害・ダウン症・筋ジストロフィー②					
2	【授業単元】 概論②	【到達目標】 小児の作業療法課程、評価、治療・援助のための基礎知識、心身機能の発達過程を理解する	10	【授業単元】 知的障害・ダウン症・筋ジストロフィー②	【到達目標】 知的障害、ダウン症、筋ジストロフィーの作業療法を理解する				
	【授業単元】 発達障害①			【授業単元】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)①					
3	【授業単元】 発達障害①	【到達目標】 自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害の作業療法を理解する	11	【授業単元】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)①	【到達目標】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)の作業療法を理解する				
	【授業単元】 発達障害②			【授業単元】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)②					
4	【授業単元】 発達障害②	【到達目標】 自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害の作業療法を理解する	12	【授業単元】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)②	【到達目標】 小児整形疾患(二分脊椎・分婉麻痺・骨形成不全)の作業療法を理解する				
	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害①			【授業単元】 感覚統合療法①					
5	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害①	【到達目標】 痙直型脳性麻痺、アトーゼ型脳性麻痺、重症心身障害の作業療法を理解する	13	【授業単元】 感覚統合療法①	【到達目標】 感覚統合療法について理解する				
	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害②			【授業単元】 感覚統合療法②					
6	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害②	【到達目標】 痙直型脳性麻痺、アトーゼ型脳性麻痺、重症心身障害の作業療法を理解する	14	【授業単元】 感覚統合療法②	【到達目標】 感覚統合療法について理解して実演する				
	【授業単元】 前半のまとめ			【授業単元】 まとめ・定期テスト					
7	【授業単元】 前半のまとめ	【到達目標】 概論を踏まえて発達障害、脳性麻痺、重症心身障害の作業療法について理解する	15	【授業単元】 まとめ・定期テスト	【到達目標】 概論を踏まえて発達障害領域の作業療法について理解する				
	【授業単元】 中テスト			【成績評価の方法と基準】					
8	【授業単元】 中テスト	【到達目標】 概論を踏まえて発達障害、脳性麻痺、重症心身障害の作業療法について理解する	科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。 その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】								
人間発達学を復習しておくこと									

## 授 業 概 要

科目名	高齢期障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
高齢期障害領域における各障害に対する作業療法の実践を身につけることができるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第4版 医学書院 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					予習・復習を行い理解を深めましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢社会について				17	【授業単元】 高齢期の疾患について③			
2	【到達目標】 高齢社会について理解し説明できるようになる				18	【到達目標】 高齢期の疾患について、それぞれの特徴を把握することができるように 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
3	【授業単元】 高齢期の課題について				19	【授業単元】 高齢期作業療法の実践について① 実践過程と治療・援助内容について			
4	【到達目標】 高齢期の課題についての知識を得ることができる 高齢期の課題について考え、自身の意見を持つことができるようになる				20	【到達目標】 作業療法実践について理解することができる 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
5	【授業単元】 社会制度について				21	【授業単元】 高齢期作業療法の実践について② 一般高齢者の作業療法について			
6	【到達目標】 高齢社会について理解し説明できるようになる				22	【到達目標】 作業療法実践について理解することができる 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
7	【授業単元】 高齢期の一般的特徴について①				23	【授業単元】 高齢期作業療法の実践について③ 介護予防に関する作業療法について			
8	【到達目標】 高齢期の一般的特徴について、それぞれの特徴を把握することができるように 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる				24	【到達目標】 作業療法実践について理解することができる 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
9	【授業単元】 高齢期の一般的特徴について②				25	【授業単元】 高齢期作業療法の実践について④ 認知症高齢者に対する作業療法について			
10	【到達目標】 高齢期の一般的特徴について、それぞれの特徴を把握することができるように 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる				26	【到達目標】 作業療法実践について理解することができる 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
11	【授業単元】 高齢期の疾患について①				27	【授業単元】 高齢期作業療法の実践について⑤ 症例検討について			
12	【到達目標】 高齢期の疾患について、それぞれの特徴を把握することができるように 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる				28	【到達目標】 作業療法実践について理解することができる 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる			
13	【授業単元】 高齢期の疾患について②				29	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
14	【到達目標】 高齢期の疾患について、それぞれの特徴を把握することができるように 上記で得た知識を臨床場面に活かすことができるようになる				30	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
15	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・中テスト等40%の配分で 総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記にて行う。 毎回授業の小テストは、2回分(15・16回と29・30回を除く)で5点満点とし、中テ スト(15・16回目授業で実施)は15点満点とする。 毎回授業の小テスト・中テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、そ の数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となり、対象者に対し治療を行うという自覚を持ち、作業療法 への理解を深めていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	高次機能障害作業治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中村 美歌		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
高次脳機能障害に対する作業療法を実践するための基礎的な能力を身につけることができる。基本的な高次脳機能障害を理解し説明ができる。高次脳機能障害に対応する代表的な検査を体験し、特徴を述べるができる。高次脳機能障害とADLの繋がりを理解し、障害像をイメージできる。高次脳機能障害の基本的な作業療法介入について理解し、プログラムの立案ができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
身体障害領域の回復期リハビリテーション病院にて19年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。高次脳機能障害における作業療法について実践例も交えながら授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版株式会社					授業単元に応じた予習・復習をして下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高次脳機能障害総論 画像診断のポイント①				9	【授業単元】 無視症候群・外界と身体の間に関わる空間性障害①			
	【到達目標】 高次脳機能障害の概要理解することができる 画像診断のポイントを押さえることができる					【到達目標】 半側空間無視の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
2	【授業単元】 画像診断のポイント②				10	【授業単元】 無視症候群・外界と身体の間に関わる空間性障害②			
	【到達目標】 画像診断のポイントを押さえることができる					【到達目標】 病態失認、身体に対する無視症候群、Pusher症候群、Balint症候群、構成障害の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
3	【授業単元】 失語、失読、失書①				11	【授業単元】 注意・記憶・遂行機能とその障害①			
	【到達目標】 失語の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 注意と遂行機能の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
4	【授業単元】 失語、失読、失書②				12	【授業単元】 注意・記憶・遂行機能とその障害②			
	【到達目標】 失語、失読、失書の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 記憶の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
5	【授業単元】 失行と関連症状、行為、動作、行動の障害①				13	【授業単元】 認知症、せん妄、外傷性脳損傷による高次脳機能障害①			
	【到達目標】 失行、失行関連症状の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 認知症の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
6	【授業単元】 失行と関連症状、行為、動作、行動の障害②				14	【授業単元】 認知症、せん妄、外傷性脳損傷による高次脳機能障害②			
	【到達目標】 把握現象、運動・動作の出力、開始、維持障害の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 せん妄、外傷性脳損傷の定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
7	【授業単元】 失認と関連症状				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 後半の学びを振り返ることができる			
8	【授業単元】 中間テスト 今までの振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 前半の学びを振り返ることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
多くの知識を身につけ、少しでも臨床の対象者を理解できるように学ぼうとする姿勢をもって臨んで下さい。									

## 授 業 概 要

科目名	日常生活活動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	二瓶太志		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
日常生活活動に参加する能力を高める作業療法を实践できるようになる。作業療法の視点から日常生活活動を理解し述べる事ができる。日常生活動作の各活動について分析し特性を説明する。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる。日常生活活動の定量評価について学び測定することができる。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる事ができる。疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる。患者さんの入院生活や退院後の生活でのADLの実際や課題を理解することができる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
作業療法士として3年間急性期、7年間回復期を経験し、その後リハビリテーション部の責任者として2度の回復期リハビリテーション病院の開設に関わり、20年目の今もなお、幅広く臨床現場で多くの患者治療やセラピスト指導に携わっている教員が、日常生活動作についての基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。実際の症例を紹介しながら、日常生活の実際や回復過程に触れる機会を設けていく。感染管理を行いながら、可能な限り、実演や実技、グループワークも活用して授業を進めていく。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
ADLとその周辺、ADL (PT・OTビジュアルテキスト)、作業療法技術学3日常生活活動、PT・OT・STのための脳損傷後の回復期リハビリテーション					小テスト、定期テストに向けた復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】4/18 1. オリエンテーション 2. ADLの支援について理解することができる				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ADL、IADLについて復習し、理解することが出来る。 OTの視点から日常生活活動をとらえ理解し述べる事ができる ADL支援に関して理解することが出来る					【到達目標】			
2	【授業単元】4/25 1. ADL能力向上のための治療アプローチについて -環境適応- 2. 実際の患者さんの退院後インタビュー動画から、退院後の生活におけるADLの実際や課題を知ることが出来る。				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ADL能力向上のための治療アプローチを理解することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】5/9 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.1 概要 身体障害と高次脳機能障害 起居・移動・移乗				11	【授業単元】			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】			
4	【授業単元】5/16 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.2 食事、排泄、更衣 整容、入浴				12	【授業単元】			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】			
5	【授業単元】5/23 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.3 コミュニケーション、料理、掃除、洗濯、バス、電車、自動車、エスカレーター等				13	【授業単元】			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】			
6	【授業単元】5/30 実際の脳卒中者とのインタビューを通して、ADLの経過や課題の実際を理解することができる ADL能力向上に向けた、OT治療を見学する				14	【授業単元】			
	【到達目標】 実際の脳卒中症例のADL経過や課題を知り、イメージすることができる。 ADL能力向上に向けたOT治療を通して、OTのクリニカルリズニングを深めることができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】6/6 1. 中間テストに向けた復習 2. 中間テスト				15	【授業単元】			
	【到達目標】 科目の到達目標に対する理解度を把握し、復習することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、中間テストはTEAMS上で実施する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
適宜、実技を行うため、毎回動きやすい服装で受講してください。講師や仲間とのディスカッションを通して理解を深めていきますので、積極的な発言を期待しています。授業前後、実技前後の手指衛生、マスク・ゴーグル着用し、実技はペアを固定し、15分以内に行うなど、感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。									

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田みな未・中村勇貴				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	5	単位	総時間数	225	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
臨床実習Ⅱ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> <li>社会性</li> <li>コミュニケーション</li> <li>挨拶</li> <li>主体性</li> <li>協働意識</li> <li>自己研鑽</li> <li>ルール（倫理観など）</li> </ul> </li>   <li>・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的知識の習得</li> <li>作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能</li> <li>全体像の把握・考察・記録</li> <li>再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈</li> <li>作業療法計画再立案</li> </ul> </li> </ul>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 III	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	小林 誠	
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	4 単位	総時間数 120 時間
【授業を通じての到達目標】								
作業療法士国家試験(精神・心理領域)に合格できる知識を獲得する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
講師は、作業療法士として17年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年となる。 国家試験対策の指導歴は10年目。OT現役学生はもちろん、OT卒業生や他資格(理学療法士、精神保健福祉士など)の学生も指導しており、これまでに数百人の国家試験合格に携わっている。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
クエスチョンバンク 2025 共通・専門					過去問と向き合う。 授業資料を整理し、自分なりにまとめる。			
回	授業計画			回	授業計画			
1,2	【授業単元】 国試対策① いろいろ その1			17,18	【授業単元】 国試対策⑨ 気分障害 その2			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】 正答率80%			
3,4	【授業単元】 国試対策② いろいろ その2			19,20	【授業単元】 国試対策⑩ 気分障害 その3			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】 正答率80%			
5,6	【授業単元】 国試対策③ いろいろ その3				【授業単元】			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】			
7,8	【授業単元】 国試対策④ いろいろ その4				【授業単元】			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】			
9,10	【授業単元】 国試対策⑤ 統合失調症 その1				【授業単元】			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】			
11,12	【授業単元】 国試対策⑥ 統合失調症 その2				【授業単元】			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】			
13,14	【授業単元】 国試対策⑦ 統合失調症 その3				【授業単元】			
	【到達目標】 正答率80%				【到達目標】			
15,16	【授業単元】 国試対策⑧ 気分障害 その1				【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 正答率80%				講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。  100点の内訳は、 国試対策①～⑤ 出席点 2点/コマ × 10コマ = 20点 国試対策⑥～⑩ 小テスト 各回 4点 × 5回 = 20点 定期テスト 60点満点  (以上で、合計100点 満点)			
【履修に当たっての心構え・留意点】					※ 中テストは行わない。 ※ 小テストは前回の授業の内容で実施。 例) 国家試験対策⑤の内容 ⇒ 国家試験対策⑥の授業内にて小テスト実施 ※ 定期テストは、国試対策セミナー内で実施する。(日程はあらかじめ告知する)			
過去問は憶えるまで繰り返し解くこと。								

## 授 業 概 要

科目名	地域実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・石井茉弥		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域生活支援を実践する場(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士の実習指導者から実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。学内で実習前後教育を1単位(45時間)実施し、現場実習を1単位(45時間)とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料、地域作業療法学第3版(医学書院)					日誌の作成、調べ学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (実習前教育) オリエンテーション、実習前セミナー  【到達目標】 必要な知識を事前学習をし、実習に向けた準備が出来る。				9	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
2	【授業単元】 (実習前教育) 実習前セミナー、実習前試験  【到達目標】 実習前試験に合格し、実習へ向かう準備を完了できる。				10	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
3	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				11	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
4	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				12	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
5	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				13	【授業単元】 (実習後教育) オリエンテーション、実習後セミナー  【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
6	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				14	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー  【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
7	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				15	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー、実習後試験  【到達目標】 実習後試験に合格することができる。			
8	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。  【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける				【成績評価の方法と基準】 ①実習地で採点する「基本的能力評価(60点)」、②実習前後試験「OSCE(20点)」、③実習報告書(20点)、計100点で採点をする。  合格基準は学則上の成績判定基準に準ずる。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
地域で生活する対象者、作業療法に興味を持ち取り組むことができる。									

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小泉雄一・石井茉弥				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅱ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域)</li> </ul> <p>社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域)</li> </ul> <p>基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案</p>											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・石井茉弥				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。総合的に対象者を把握できる。											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
臨床実習Ⅲ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> <li>社会性</li> <li>コミュニケーション</li> <li>挨拶</li> <li>主体性</li> <li>協働意識</li> <li>自己研鑽</li> <li>ルール（倫理観など）</li> </ul> </li> <li>・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的知識の習得</li> <li>作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能</li> <li>全体像の把握・考察・記録</li> <li>再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈</li> <li>作業療法計画再立案</li> </ul> </li> </ul>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介、学科教員		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.2年生で学んだ内容を総復習し、作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法の各分野で臨床経験を持つ教員が持ち回りで授業を展開します。作業療法を学習する上で押さえておくべきポイント、学習を深めるポイントなどを伝え、グループワークを通して学びを深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク					授業の予習復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				9	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
2	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				10	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
3	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				11	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
4	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				12	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
5	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				13	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
6	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				14	【授業単元】 専門分野の復習  【到達目標】 専門分野の復習を通して理解を深めることができる			
7	【授業単元】 基礎分野の復習  【到達目標】 基礎分野の復習を通して理解を深めることができる				15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習  【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。定期テストは11月3日の模試とする。定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは35点、Eは25点、Fは15点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

## 授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	渡辺陵介、学科教員		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法の各分野で臨床経験を持つ教員が持ち回りで授業を展開します。作業療法を学習する上で押さえておくべきポイント、学習を深めるポイントなどを伝え、グループワークを通して学びを深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク					授業の予習復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 解剖学の復習  【到達目標】 解剖学の要点を理解できる				9	【授業単元】 身体障害領域の作業療法(脳血管障害)の復習  【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点について理解できる			
2	【授業単元】 生理学の復習  【到達目標】 生理学の要点を理解できる				10	【授業単元】 身体障害領域の作業療法(骨関節・神経筋疾患)の復習  【到達目標】 骨関節・神経筋疾患の作業療法の要点について理解できる			
3	【授業単元】 運動学の復習  【到達目標】 運動学の要点を理解できる				11	【授業単元】 身体障害領域の作業療法(内部障害)の復習  【到達目標】 内部障害の作業療法の要点について理解できる			
4	【授業単元】 内科学の復習  【到達目標】 内科学の要点を理解できる				12	【授業単元】 義肢装具学、福祉用具学、作業療法概論、地域作業療法学、発達障害に対する作業療法の復習  【到達目標】 義肢装具学、福祉用具学、作業療法概論、地域作業療法学、発達障害に対する作業療法の要点について理解できる			
5	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				13	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
6	【授業単元】 神経内科学、整形外科学、人間発達学、末梢神経・筋疾患の復習  【到達目標】 神経内科学、整形外科学、人間発達学、末梢神経・筋疾患の要点を理解できる				14	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
7	【授業単元】 作業療法評価学の復習  【到達目標】 作業療法評価学の要点について理解できる				15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習  【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習  【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは11月24日の模試とする。定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照)。 Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは35点、Eは25点、Fは15点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									